神戸常盤大学短期大学部
看護学科通信制課程

記念誌

2005
→2024

Kobe Tokiwa Junior College
Department of Nursing Correspondence Course

神戸常盤大学短期大学部

看護学科通信制課程

記 念 誌

2005 ››› 2024

Contents

ご挨拶

中村　忠司 …… 4
学校法人玉田学園　理事長

濵田　道夫 …… 6
神戸常盤大学　学長

金川　治美 …… 8
神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程　課程長

閉科に寄せて

鎌田美智子 …… 12
神戸常盤大学　前副学長

大森　綏子 …… 14
兵庫県看護協会　元会長

井部　俊子 …… 16
聖路加国際大学　名誉教授／株式会社井部看護管理研究所

通信制課程のあゆみ

看護師2年課程（通信制）の創設 …… 20
本学看護学科通信制課程20年のあゆみ …… 20

長尾厚子先生を偲んで

初代課程長　長尾厚子先生に贈る言葉 …… 26
通信制課程への思い …… 27
元大学事務職員から　坂野　治雄 …… 28
卒業生から　小原　敦子 …… 29

卒業生からのメッセージ

大島　伴博 …… 32
2009（平成20）年度卒業

田野　美紀 …… 33
2010（平成22）年度卒業

松下亜紀子 …… 34
2013（平成25）年度卒業

堀井　梓美 …… 35
2020（令和2）年度卒業

佐伯明日美 …… 36
2022（令和4）年度卒業

高松　菜穂 …… 37
2023（令和5）年度卒業

卒業生アンケート調査 …… 40

看護学科通信制課程　卒業生座談会

「今に繋がる学び」 …… 48

資料

教育課程について …… 52
カリキュラムについて …… 54
臨地実習施設について …… 59
統計（入学生数･卒業生数･年齢分布･看護師国家試験結果）…… 66

ご挨拶

看護の未来を支えた「日本にひとつだけの箱」―通信制課程閉科に寄せて

学校法人玉田学園　理事長
中村　忠司

令和7年3月31日をもって、看護学科通信制課程はその幕を閉じました。平成17年4月の開設から20年にわたり、看護師を志す多くの准看護師の皆様に学びの機会を提供し、社会的使命を果たしてまいりました。閉科の決定は、一定の成果をもって社会的意義を十分に果たしたという結論によるものです。

いま、あらためてこの通信制課程の歩みを振り返り、その意義と功績を共有させていただきたいと思います。

本通信制課程は、看護師養成制度の改正を背景に誕生しました。准看護師が2年間の通信教育を通じて、看護師を目指すことができる新たな制度のもと、看護の道を志す方々の可能性を広げるものでした。当時、医療の高度化、在院日数の短縮、超高齢社会の進行、そして在宅ケアの推進といった変化が進む中、「国民に質の高い看護を提供する」という看護職の使命はますます重要性を増していました。

また、当時は全国に約40万人もの准看護師が従事していました。しかし、今はよく耳にする「リカレント」という言葉はなく、学び直しやキャリアアップを支援する制度が強く求められる一方で、「今さら准看護師を看護師にする課程を大学がつくる意味があるのか」、「時代に逆行しているのではないか」という声も少なくありませんでした。

それでも、当時法人事務局企画課長であった私は、ある新聞に掲載された「通信教育により准看護師から看護師へ。大学での養成が可能に」という、ほんの数行の記事の一文に強く心を打たれました。「我々こそが挑むべき課題だ」と感じたのを、今でも覚えています。

ですが、実際、大学教育としての看護学科通信制課程は、困難を極める道のりでした。平成13年度には、兵庫県下の私立大学として初めて看護学科を開設しましたが、大学法人として通信教育による看護師養成課程の認可申請は、これまでに例のないものでした。文部科学省の設置基準にも明記されておらず、制度的な裏付けも乏しい中での挑戦であったためです。「なぜ大学教育で通信制による看護師養成ができないのか？」、「本当に厚生労働省でなければ担えないことなのか？」という問いを胸に、専任スタッフをはじめ、多くの関係者とともに壁を一つ一つ乗り越えていきました。ついに通信制課程の設置認可を受けたときの達成感は、今でも忘れることができません。

そして、何より私たちに勇気を与えてくれたのは、全国各地の看護協会が主催する説明会に参加し、「ぜひ学びたい」「看護師になりたい」と真剣な眼差しを向けてくださった准看護師の皆様の存在でした。その強い意志と眼差しが、この課程を開設する大きな原動力となりました。

社会人として、そして現場の看護従事者としても豊かな経験をもつ方々へ、正面から応えられる教育体制を築くことが、私たちの責任となりました。ただ知識を教えるのではなく、経験に寄り添い、共に学ぶ姿勢を持つ教員陣の編成―、まさに、本学が掲げる「実学」という建学の精神を体現する営みでもありました。目の前の准看護師一人ひとりに真摯に向き合いながら、その成長を支えることを通じて看護の未来に貢献しようとした教員の、人としての信念と温かみが、この通信制課程には確かに息づくようになっていました。

私は、この課程を閉じることを決断したとき、「最終列車」を胸に描いていました。平成17年の開設という始発から、力強く走り続けた列車。その最後の便が、令和7年3月31日に向けて静かに出発する。どうか一人でも多くの方が、この列車に間に合ってほしいと願わずにはいられませんでした。

そして、令和7年4月1日。本学の看護学科は看護学部として新たなスタートを切ることになりました。通信制課程の閉科と同時に、象徴的な節目となりました。これは単なる名称変更ではなく、これまでの蓄積をふまえたうえで、より一層「常盤の看護」を輝かせるための一歩です。

本学部の最大の誇りは、やはり卒業生の存在です。それぞれの地域で、看護師として現場を支え、地域医療に貢献している卒業生たちの活躍は、私たちの志の結晶です。今後もこの学び舎が、看護の精神を体得した人財を世に送り出す場であり続けることを、心から願っております。

最後になりますが、この20年間で、2,913名の学生が卒業し、2,767名もの准看護師が看護師の資格を手にして医療現場の第一線で活躍しています。その一人ひとりが、通信制課程の存在意義を証明してくれています。他大学が設置を見送る中で、最後まで唯一無二の課程であり続けたことも、私たちの誇りです。これまで看護学科通信制課程の運営にご協力いただいたすべての関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。社会の変化に応じた教育の在り方を常に問いながら、本学はこれからも看護教育に邁進してまいります。

20年の実績をもとに

神戸常盤大学　学長
濵田　道夫

　このたび、本学短期大学部の看護学科通信制課程が、2005年春の開設以来20年の歴史に幕を閉じました。この間に2,913名の学生が卒業し、2,767名が看護師の国家資格を取得いたしました。短期大学では唯一の看護学科通信制課程でした。それだけに、閉校することには残念な思いもありますが、同時に社会の要請に十分応えたうえでの閉校といってもよいかと思います。しかしそれですべてが消え去るのではなく、本学としては、通信制課程を支えてきた社会人教育の精神を継承し、これまで積み上げてきた経験と実績を今後の大学教育に活かしていきたいと考えています。

　いま振り返ってみると、通信制課程で一番印象に残るのは、何と言っても2020年春に始まるコロナ禍の頃のことです。当時、通信制の教育委員長を務めておられた長尾厚子先生が、何度か学長室に訪ねてこられて、通信制の授業の進捗についてあれこれと報告を受けました。コロナ禍のなかで授業を続けることは、キャンパスの通学課程でも大変でしたが、通信制課程では学生にとっても教員にとってもはるかに困難だと感じました。とくに東京でのスクーリングのこと、臨地実習のことなど、何とか次につなげようとされていた長尾先生の熱意が伝わってきました。当時の通信制課程の学生、教員スタッフも同じ気持ちだったのだと思います。

　学生の皆さんはすでに医療に従事する人たちですから、移動や感染対策などで並々ならぬ苦労があったと聞いています。当時、県境を越えて移動することが制限されたり、勤務先の医療機関からの感染対策上の指針などが出されました。学生の皆さんは、ふだんはレポート課題など、一人で学習に励んでおられるので、スクーリングは仲間と会って話し合い、情報交換のできる貴重な時間だったと思います。ただでさえ精神的に負担の多いコロナ禍のあいだ、皆さんは仕事と学習によく頑張られたと思います。

　コロナ禍のなか通信制課程で行われた遠隔授業は、大学の新しい教育体制を考えるとき、たいへん貴重な経験でした。コロナ禍がある程度おさまってから、学生と教員に遠隔授業についてのアンケート調査が行われましたが、そこでは仕事と家庭を持つ社会人学生の率直な意見に触れることができました。本学は近年、卒業生を中心とした社会人のリカレント教

育（学び直し）に力を入れていますが、対面を中心として可能な範囲でオンラインでの授業も取り入れなければなりません。通信制課程をとおして、社会人ならではの学習の仕方、教員側からすれば社会人ならではの指導の仕方があるように思えてきました。その体制を整えるために、ぜひ通信制課程での経験を活かしていきたいと考えています。

ところでいまになって思うと、通信制課程の学生さんたちに接する機会が少なかったことに悔いが残ります。入学式や学位授与式の式辞で、演壇からエールを送っても、それはコミュニケーションとはいえません。しかし、それでも印象に残る場面もありました。コロナ以前のこと、学位授与式のあとキャンパス内で行われる謝恩会に顔を出したとき、教室が和気あいあいの雰囲気につつまれていたことをおぼえています。話がはずみ、写真を撮り合ったりで、おそらくスクーリングで知り合った仲間たち、互いの苦労がわかりあえる仲間たちです。謝恩会は学生さんたちと接する数少ない機会でしたが、コロナをきっかけに下火になってしまいました。

ネパール研修も思い出されます。ネパール交換研修では、二年に一度こちらから、在校生、卒業生、常盤女子高の生徒、教職員がカトマンズを訪れ、ホームステイをしながら現地の医療機関、学校などを見学し、双方の学生どうしが交流するのですが、私が同行したときには、通信制課程の学生2名も参加しました。活発な人たちだったので、この体験をその後の仕事に活かしているものと想像しています。また、年に一度キャンパスで開催される本学の研究集会「神戸常盤学術フォーラム」に、通信制課程の学生が参加したこともありました。歯切れのよい研究報告だったことが印象に残っています。

ともあれ、看護学科通信制課程はこれで閉幕となりますが、学生と教職員がこれまで積み重ねてきた実績や経験そして思い出を大切に、大学としての次のステップに進みたいと考えています。

この20年を振り返って
－本校における看護師2年課程（通信制）教育について－

神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程　課程長
金川　治美

看護師2年課程（通信制）は、長く続く准看護師養成の是非に関する議論の中から生まれた教育課程で、神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程は全国で唯一の文部科学省管轄の短期大学での通信制課程として2005年に設置されました。開設からこれまでに2913名の卒業生を送り出し社会的役割を果たしてきましたが、2025年3月をもって完全に閉科致しました。これまで本課程の教育に、ご理解ご協力いただいた多くの方々には心から感謝申し上げます。

初年度は、定員350名の募集に対して1000名近くの応募があり、この倍率を勝ち残って入学した学生達は、年齢も経歴も様々で、春期の対面授業で顔を合わせた時の教室の活気に満ちた様子を思い出します。その後20年の間に、准看護師養成所及び准看護師数の減少や准看護師を取り巻く就業状況の変化など、この教育の前提となる准看護師としての臨床経験の内容は大きく変化する中で、常に教育レベルを維持するために努力してきました。

看護師2年課程（通信制）の創設に至る経緯やこの時に懸念された事柄などについては、様々書き記されたものがありますが、この教育内容については20年を経過してもまだまだ認知度が低く、2年課程（通信制）の存在自体を知らない方もいらっしゃると思います。

令和6年度に、本課程の教育の集大成として、これまでの卒業生に対してアンケート調査を行いました。この記念誌を刊行するにあたり、その結果を踏まえて実際にこの教育に携わった立場から実情を記しておこうと思います。

そもそも、看護学を通信という形態で教育すること自体が前例のないもので教員全員が通信教育の経験がなく、文部科学省の大学通信教育にも看護教育は経験も基準もないため、すべてを自らで構築する必要がありました。最も悩ましかったことは、通信制とはいえ教育内容は全日制や定時制の2年課程に近いものであり、かつ、修業年限は2年間と短期間であったことです。学生の負担が大きいことは容易に想像できましたが、本課程は看護師国家試験受験資格以外に短期大学士の学位が得られ取得単位はキャリアアップにも活用できるのですから、教育内容の保証が必須であり教育レベルを下げるわけにはいきませんでした。そこで、看護を学問として理解してもらうために教育理念と目標は本学看護学科に基づきながら、准看護師としての体験を生かしつつ看護師の思考過程を理解し概念化するための教育内容と方法を構築していきました。そのため、レポー

ト科目では難しすぎるとか、なかなか合格しないなどの苦悩の声もよく耳にしました。学生の学修継続を支援するためにはこの難しさに挫折しないための工夫も必要でした。そこで成人教育であるという事を念頭に置き、学生が自信を失わないように添削コメント内容を工夫したり、スモールステップで達成感を維持できるように工夫をしました。これらに対しては、卒業生から「難しかったが、やり遂げた後の達成感が自信になった」「学んだことで職場での評価が変わった」などと評価されています。

レポート科目以外でも苦心したのは実習科目でした。通信制の実習の構成は通学とは大きく異なり、2日間の見学実習とその前後での3日間の面接授業の計5日間で1科目を修得します。これは「免許を得た後10年以上の就業経験を有する准看護師については、十分な実技能力を有しているものと考えられるため、准看護師が日常的に経験する事例を活用することによる問題解決型の教育をする」という考えに基づいたものですが、先に述べたように看護学の通信教育自体が初めてでしたので、わずか5日間でどのようにして看護師としての判断力や実践力を養えばいいのか何の検討材料もない中でまさに手探り状態でした。それは実習を受ける臨床の指導者も同様です。2日間の見学の機会しかありませんので、学生が見て感じたことだけからの学びでは不十分です。そこで、指導にあたる看護師に、看護実践の背後にある思考プロセスを言語化してもらい、看護師が何をどのように捉え判断して看護実践に移しているかを意識しながら見学できるようにお願いしました。そして面接授業では見学してきた看護実践に対して教員の思考（判断や評価）を示し、さらにこれまでの准看護師としての看護実践を説明することでその後の看護実践がどうあるべきかを考える力を養っていきました。面接授業を受けた後の学生は、准看護師と看護師の違いを理解し「看護って楽しい」と実感するに至っています。本課程が開設当初から考えていたこの方法は「思考発話」という表現で、令和5年度の厚生労働科学特別研究事業である、「看護師養成所2年課程（通信制）の入学要件見直しにかかる調査研究で作成された、教員研修ツール」の実習病院への依頼動画に取り入れられました。「思考発語」という言葉こそありませんでしたが、20年前から実践していたことになります。

卒業生達の成長と社会への貢献が私たちの教育に対する評価であると実感しています。今後もさらに研鑽を重ねて、充実した看護師としての職務を果たしてくれるとともに、臨床での彼らの姿が、進学に踏み出すことが出来ない准看護師の目指す看護師像となることを心から願っています。

閉科に寄せて

未来を拓いた学修力

神戸常盤大学　前副学長
鎌田 美智子

本学短期大学部の看護学科通信制課程が、今年度末をもって閉科となりました。平成17年の開設以来、2,913名が卒業し、2,700名を超える准看護師が看護師として誕生し、全国で活躍しております。開設からの過程を振り返ってみますと、決して平坦とはいえませんでした。しかし、熱意に溢れた教授・学習過程を通して、学修力の高い看護師が誕生しており、一つの成果を得たのではないかと思われます。

周知のとおり、准看護師養成は、昭和20年代の看護師不足を補う課程として「保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下指定規則）」に制定され、その役割を果たしてきました。しかし急速な少子高齢化や医療技術の進歩、国民のヘルスケアニーズの高まり等を背景に、良質の保健医療に応え得る看護実践者が求められるようになりました。平成15年には、前記指定規則の一部が改正され、就業年限10年以上（当時）の准看護師に、通信制（2年課程）による進学が可能となりました。そこで本学では、実学教育という建学の精神の下、高等教育に遭遇し難かった准看護師たちへの機会を拡大するために開設が意図されました。

「指定規則の一部改正」に至る過程では、「准看護婦の資質の向上に関する検討会（筆者も委員のひとり）」、「准看護婦の移行教育に関する検討会」、「准看護婦問題検討会報告書（1996）」他、幾つかの検討がなされ、准看護婦養成の問題が浮き彫りにされておりました。これらを背景に、本課程では、准看護師として10年以上の“看護の体験を意味づける”ということ、さらに、それらを高等教育レベルの豊かな物的人的環境の中で、“自ら発展・展望させる学修力（初等中等教育での学習ではなく）”を高めることを重視したカリキュラムの構築を考慮しました。

認可の過程においては、短期大学設置基準に則った教育内容、特に「教員組織」の充実という観点が強く求められました。それゆえ、上記のようなコンセプトは教育側の熱意や力量の下に短期大学として実践されることが前提であったと思われます。つまり本学での開設は、専修学校ではなく学校教育法第1条校における高等教育の課程として審査されたということになります。ちなみに、この後、短期大学での申請を試みる教育機関がみられましたが、設置認可に至ったのは、本学のみでありました。

前記の教員組織の審査では、高等教育における看護学の専門性が問われ、その結果既設の看護学科（3年課程・通学制）に併入される形での認可となりました。このため専門分野の科目においては、当時看護学科の学科長であった筆者以下、各看護学領域における教授や准教授等に通信制課程の教員を組み込む形態の教育運営となりました。また通信制の授業形態は、大きく「テキスト学習、スクーリング、臨

地実習」に分けられますが、本課程の特徴を踏まえ、前記した“准看護師の体験内容を、概念や理論”につなげていくような“帰納的な学修力”をポイントに、これまでの看護実践の体験をできるだけ多く提示することを心がけました。たとえばテキスト科目「看護学概論」のレポート設題では、6つのテーマを提示しうち2つを選択提出し単位の認定を行うようにしました。したがって教員側には、6つの課題全部に均質性や整合性のある答えを準備することや、テキストの全内容の学修が反映されているか等、評価基準の検討に時間を要しています。加えてスクーリング科目は、学生の勤務が少ない土・日曜の休日に、また出来るだけ地方会場を多く設け、看護専門の教員が担当し、直接的な教授・学習過程を深めるようにしました（一般科目の教員が担当する学校もあったようですが)。さらにはインターネットによる学修方法の工夫等、学修環境を整備するように努力しました。学生たちは、勤務をしながらの多忙な学修のためか、中には、教育側からの指示による受身的な学習を望んでいる学生も見受けられましたが、ほとんどが、図書館や学習室の活用、教員研究室での対話等、既設の大学環境を最大限に活用した主体的な学修に馴染んでいったと思われます。

教員側においては、通信制課程専任の場合はもとより併設の通学課程の教員たちの教育研究活動は、多忙を極める状況にあったといえます。しかし学生たちとの交流の具体を通して貴重な学びにつながっていたと思われます。例えば私の研究室で、1期生のある学生が次のようなことを話してくれたことがありました。『・・・日常の勤務では、医師の指示を厳守することを第一に、あまり深く考えることがなかった。しかし例えばベットに仰臥して安静に過ごしていた患者では、病気の種類や段階の根拠、そして何よりも一人の患者の生活過程に関する多くの知識や理論を学ぶにつけ、体を起すことで上半身への血流を高め、手足の動きを促し、病室での視野を広げることで家族や医療従事者との交流が増え回復につなげる・・・』といった現状の分析でした。まさに看護学が、人々の安楽や成長といった特定の変化を指向していることへの気づきでありました。このような学修をさらに深めるべく意欲を高め、本学の4年制大学に進学した学生も数人みられています。

以上のような経過を辿り終えた通信制課程でありましたが、大学にとっても多くの学びをもたらしたと私は考えております。この課程の開設に心血を注がれ、当時課程長としてご活躍された今は亡き長尾厚子先生は、どのように評価してくださるでしょうか。いつもにこやかにしかし力強く課程を導びかれた先生、その笑顔を思い浮かべ励まされながら、卒業生・教育側共に、保健医療福祉の発展のために、これからも学修力を磨いていきたいものです。

記念誌の発行に寄せて

兵庫県看護協会　元会長
大森　綏子

私は、看護師職能理事、第二副会長経験後、2004（平成16）年より会長へ就任しました。この間、多くのことに邁進しながら貴重な体験をさせていただきました。中でも、准看護師問題は、常に課題として取り組んだ事業です。

准看護師制度は、1951（昭和26）年看護婦不足に対する対応策として始まったものです。しかし、急速な少子高齢化の進展や医療技術の進歩、国民の医療に対する意識の変化など、医療を取り巻く環境が変化する中で、自律的に判断し行動できる能力、良質かつ適切な医療、看護を提供していくことが重要な課題となってきました。

兵庫県看護協会は、「准看護婦制度と准看護婦が看護婦になる為の進学コース受験のための学習支援」を開催、准看護婦の資質の向上に努めました。学習支援は、1983（昭和58）年より開催、多くの准看護婦の学びの場として活用されました。内容は、「英語・数学・国語」等の基礎科目でした。2002（平成14）年看護師養成所2年課程（通信制）が審議され、2004（平成16）年より実施するとの報告書を受けて、学習内容を「パソコンの使い方・小論文の書き方」等に変更、これは受験を希望する准看護師のニーズに応えたものでした。

准看護師制度への取り組みは、准看護師養成停止を求め、看護師養成の一本化を求める署名運動を実施するなど准看護師の資質向上に努めました。そのなかで1995（平成7）年10月、准看護師問題について「准看護師問題調査検討会」が設置されました。その結果「21世紀初頭の早い段階を目途に看護師養成制度の統合に努める」ことが提言され、2つの検討会が開始されました。「准看護師の資質の向上に関する検討会」「准看護師への移行教育に関する検討会」です。

私たちは2つの検討会を傍聴し、兵庫県下10支部の准看護師、施設代表者の皆様への情報提供に努めました。なかでも、経験年数10年以上の准看護師が看護師になるための移行教育を5年間に限って実施することについては、知らない准看護師が多く見受けられました。看護職交流会でのアンケート調査の結果から、参加者の77%が30～50代で、経験年数10年以上が70%を占めており、60%の人が通信教育を考えておられました。進学をあきらめていた多くの准看護師が通信教育開始により進学への意欲を持たれたことが分かりました。

そして、2003（平成15）年は意向調査実施プロジェクト委員会を立ち上げ、県下准看護師3,585名にアンケート調査を実施、3,160名の回答を得ました。これは通信制への関心の高さを示すものでした。こ

の調査には神戸常盤大学（当時短期大学）保健科学部看護学科 学科長の故 長尾厚子先生のお力添えによるところが大きいと言えます。

2004（平成16）年度より看護師養成2年課程（通信制）実施の運びとなりました。さらに、兵庫県看護協会は、新しい情報提供の目的で看護職交流会を開催し、放送大学、神戸常盤短期大学（当時）看護学科の長尾厚子先生に講師をお願いし、看護師養成2年課程（通信制）について説明頂き、受講生の不安の除去に努めました。

さらに、神戸常盤短期大学看護学科通信制課程開校にあたっては、文部科学省管轄の開講により、兵庫県看護協会からは文部科学大臣へ要望書を提出し、早期実現を求める運動を行いました。

また、施設代表者会議を開き、看護制度の動向や日本で初めての文部科学省管轄の看護師養成課程（通信制）であることを説明し、病院実習について協力を求めました。こうして2005（平成17）年4月、神戸常盤短期大学看護学科通信制課程が創立されたのです。あれから、20年の間に2,900名以上の学生を輩出してこられました。

この20年間、准看護師制度の変革にご理解、ご支援いただきました皆様に改めまして敬意を表し、心より感謝申し上げます。特に神戸常盤大学短期大学部に看護学科通信制課程を許可して下さった学校法人玉田学園理事長様、20年間学生を見守り支えてくださいました教職員の皆様、そして、開校に向けて陰になり日向になりして支えてくださいました皆様、病院実習を引き受けてくださった臨床の皆様に感謝いたします。

2,900名余りの卒業生の皆様は、神戸常盤大学短期大学部の卒業生としての誇りを持って全国で活躍されています。臨床現場からは（現場の声として）看護師となられた方々が、エビデンスに基づく実践の面白さ、楽しさや患者さんを全人的にとらえられることが強まった等、実感されていると伺いました。看護師の仲間として大変嬉しく心強く思います。

今後も建学の精神を忘れずに保健・医療・福祉チームの一員としてご活躍下さい。そして、時には、風光明媚な学舎を思い出し第2のふるさと兵庫（神戸）へ帰って来てください。

神戸常盤大学短期大学部 看護学科通信制課程の閉科に寄せて

聖路加国際大学　名誉教授／株式会社井部看護管理研究所
井部　俊子

2014（平成26）年6月に成立した「地域における医療および介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」（医療介護総合確保推進法）によって改正が必要とされた法律は、医療法、保健師助産師看護師法、介護保険法等19本に及びました。このなかに、看護師等に対するナースセンターの届出制度、医療機関の勤務環境改善のための仕組みの導入、医療・介護従事者の確保に資する施策が含まれています。

さらに、2015（平成27）年3月の国家戦略特別区諮問会議において、地域医療体制の充実に向けた看護師養成のため、通信制看護学校養成所（看護師2年課程養成所通信制）の入学要件について、准看護師としての業務経験年数の短縮の方向性が規制改革事項として決定されました。こうした背景のもとに、「看護師2年課程（通信制）への進学者の就業年限と就業内容に応じた教育内容に関する研究」（平成27年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業,研究代表者 井部俊子）が実施されました。

続いて、2016（平成28）年度には、「看護師養成所2年課程（通信制）における臨地実習のあり方に関する調査」（平成28年度厚生労働省医政局看護課看護職員確保対策特別事業,調査代表者 井部俊子）が実施されました。これまで、看護師養成所2年課程（通信制）では、10年以上の就業経験を有する准看護師には臨地実習として、紙上事例演習（24事例程度）、病院等見学実習（16日）、面接授業（24日）に代えることとされています。具体的には、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、看護の統合と実践という8科目においてそれぞれ3事例程度の紙上事例演習を行い、2日ずつの病院等見学実習、3日の面接授業を行うというものです。こうした現状に対して、①見学実習の課題と実習環境の整備の必要性、②紙上事例演習の課題と効果的な学習を支援する学習方法の検討の必要性が指摘されました。また、2018（平成30）年度より、看護師養成所2年課程（通信制）の入学要件である准看護師業務経験年数が10年から7年に短縮されることによる、新たな入学要件に合った教育内容を検討する必要がありました。

こうした背景のもと、看護師養成所2年課程（通信制）教育に携わっているベテラン教員や看護管理者等が議論し提案することを目的として調査計画が立てられました。

調査には、フォーカスグループインタビューを採用し、東京、大阪、福岡の3箇所で実施しました。51名（通信制の専任教員33名を含む）が参加しました。

神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程からは、「紙上事例演習教材」として、髙宮洋子先生と金川治美先生が報告されました。基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論の7教科について各3事例、看護マネジメント演習2事例、合計23例の紙上事例演習を行うこと、演習レポートに合格することが、見学実習の必須前提条件であること、各事例には3〜5題の設問を設け、論述形式で回答を求めていること、さらに、入学後早期に、1科目15時間の対面授業を行って、看護とは何か、どう学ぶのかを説明していることや、カリキュラム進度の節目に、学習の進捗状況に対応する手紙を学生に送って支援しているなどが報告されています。

私が印象に残っていることは、通信制課程の教員が、情熱をもって学生と向き合っていること、学生の目が輝いていてはつらつとしていたことです。神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の閉科に際し、20年の功績を称えたいと思います。

Kobe Tokiwa Junior College

Department of Nursing Correspondence Course 2005 → 2024

通信制課程の
あゆみ

【看護師2年課程（通信制）の創設】

1951年

第2次世界大戦後の急性期疾患の増加と結核の蔓延などによる急激な病院の増加に伴う看護婦不足に対する対応策として准看護婦制度が始まる。准看護婦は看護婦需要の補充に大いに貢献し数は増加し続ける一方で、看護師はより質の高い看護実践能力を求められるようになり、看護教育の高度化を目指すために看護師資格の一本化を目指す動きが同時に始まる。

1994年

看護師等学校養成所の運営に関する指導要領が改正され「就業経験の長い准看護婦が希望している看護婦への道を広げるためのもの」として、それまで全日制と定時制だけだった2年課程に新たに通信制（現行の2年課程（通信制）とは異なる）を創設したが養成所からの申請はなかった。

1995年

准看護婦問題について「准看護婦問題調査検討会」が設置され、准看護婦養成所等の客観的な実態把握とそれに基づく検討が開始される。翌年、報告書において「21世紀初頭の早い段階を目途に、看護婦養成制度の統合に努める」ことが提言され、今後の対応にとして准看護婦養成の質的向上のための検討と准看護婦の看護婦への移行教育の検討を行うよう日本医師会長及び日本看護協会長宛に通知された。

1997年

准看護婦養成停止を求める看護協会と准看護婦制度の存続と養成の継続を前提とする医師会との間に見解の相違がある中で、二つの検討会が発足し、1年余りの検討の後、報告を得る。

「准看護婦の資質の向上に関する検討会報告書」

・カリキュラム総時間数を現行の1500時間から1890時間に変更する。

・専任教員数を現行の2人から5人（当分の間3人）に変更する。

「准看護婦の移行教育に関する検討会報告書」

・就業経験10年以上の准看護婦が看護婦になるための移行教育を5年間に限って実施する。

・国は、移行教育の開始時期について関係者と十分に協議する。

移行教育については、保健婦助産婦看護婦法の改正が必要であり、開始時期は明言されず経過する。

2002年

「就業経験10年以上の准看護師への特別措置として2年課程通信制の弾力的運用を開始する」との厚生労働大臣の答弁から、2年課程（通信制）運用に向けた動きが加速化する。

2004年

10年以上の就業経験を持つ准看護師から看護師への教育の拡大を図るため、看護師2年課程（通信制）が創設され、全国で3校が開設される。

同年11月に、本学での看護学科通信制課程の設置が認可される。

開設　神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程20年のあゆみ

2005年

・「質の高い看護専門職業人の育成」という社会的要請に応え、生涯学習におけるリカレント教育の機会を拡大すべく、神戸常盤短期大学看護学科に併設する形で通信制課程が開設される。

・看護師2年課程（通信制）の短期大学は本学が全

国で唯一である。

・長尾厚子氏が課程長、通信教育委員長に就任する。

・学生の利便性を考慮し本学（神戸市）以外に岡山市内と名古屋市内にもスクーリング会場を設る。

・開設記念講演会・シンポジウム「現代の生と死を考える」を開催する。

第一部 基調講演「いのちと生きがい」
演者：柳田邦男氏（ノンフィクション作家）

第二部 シンポジウム『延命か生命の質（QOL）か ～患者の「選択」、家族の「決断」、医療者の役割～』
登壇者：柳田邦男氏、額田勲氏（医療法人社団倫生会みどり病院 理事長）、具英成氏（神戸大学 肝臓・移植外科 教授）、出河雅彦氏（朝日新聞 編集委員）、伊藤由美子氏（兵庫県立成人病センター がん専門看護師）※所属・役職等は当時のもの

2007年

・第一期生が卒業する。

2008年

・神戸常盤大学の開設に伴い、神戸常盤大学短期大学部に名称を変更する。

・髙宮洋子氏が課程長に就任する。

2009年

・名古屋市内でのスクーリング開講を終了する。

・新たに京都市内にスクーリング会場を設ける。

・施設長や所属長からの推薦を受けて受験する推薦入試制度を導入する。

通信制課程の学生は医療機関等で仕事をしながらの学習をすることが多く、学習時間の確保や勤務の調整が困難になる場合が見受けられたが、勤務先の管理職者からの推薦を受けることにより、進学に対する職場の理解を得て、入学後の学習環境を確保するとともに、キャリアアップの意欲を喚起する。

・経済的状況や学習環境の確保が困難である等の理由によって一時は学習を断念した本学学生が、看護師資格の取得に再度チャレンジする機会を設けるため、再入学制度を導入する。

2010年

・保健師助産師看護師学校養成所指定規則が改正され、統合カリキュラムに変更される。

この改正では、分野が「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の 3分野のうち「専門分野」が「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」に分類され、看護職としての判断能力・応用能力・問題解決能力の育成強化を図ることになる。本課程では「看護過程演習」「看護管理」「看護マネジメント演習」「看護マネジメント実習」の4科目を新設し、卒業要件単位数が63単位以上から66単位以上に変更する。

・本学エクステンションセンター（当時）と共催で卒業生を対象としたリカレント講座「認定看護師

による専門講座（認知症看護、緩和ケア）」「ホリスティックアプローチを目指したスキルアップ講座（タッピングタッチ、体位変換、フットケア）」を開講する。

・本学国際交流センター事業「ネパール交換派遣研修」に本課程の学生2名が参加する。

2011年

・本学エクステンションセンター（当時）と共催で卒業生を対象としたリカレント講座「専門・認定看護師による専門講座（精神看護、皮膚・排泄ケア）」「ホリスティックアプローチを目指したスキルアップ講座Ⅱ（園芸療法、口腔ケア、体位変換）」を開講する。

2012年

・本学エクステンションセンター（当時）と共催で卒業生を対象としたリカレント講座「専門・認定看護師による専門講座（感染管理、老人看護）」「ホリスティックアプローチを目指したスキルアップ講座Ⅲ（アロマテラピー、音楽療法、高齢者と運動）」を開講する。
・本学国際交流センター事業「ネパール交換派遣研修」に本課程の教員1名、学生1名が参加する。

2014年

・入学定員を350名から250名に変更する。
・岡山市内でのスクーリング開講を終了する。
・新たに東京都内にスクーリング会場を設ける。
・看護師資格の取得に強い意欲と目的意識を持つ受験生を対象とした自己推薦入試制度を導入する。
・本学エクステンションセンター（当時）と共催で卒業生を対象としたリカレント講座「専門・認定看護師による専門講座（摂食・嚥下障害、糖尿病、がん化学療法）」を開講する。
・本学国際交流センター事業「ネパール交換派遣研修」に本課程の学生2名が参加する。

2015年

・本課程の卒業生2名が、神戸常盤大学保健科学部看護学科に3年次編入学する。その後、2名ともに2019年3月に卒業し、学士（看護学）を取得する。
・本学教育イノベーション機構（当時）と共催で卒業生を対象としたリカレント講座「法的な目で事件を見る」を開講する。

2016年

・全国通信制看護学校協議会研修会を本学で開催する。鎌田美智子氏（当時：神戸常盤大学保健科学部学部長）の講演と、参加者（全13校、42名）でのグループワークを実施する。
・本学国際交流センター事業「ネパール交換派遣研修」に本課程の学生2名が参加する。

2018年

・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部が改正され、准看護師から看護師への移行が促進されることを目指し、看護師養成2年課程（通信制）への入学資格である准看護師としての就業経験年数が10年から7年に短縮される。
・入学定員を250名から150名に変更する。
・京都市内でのスクーリング開講を終了する。
・新たに金沢市内にスクーリング会場を設ける。
・金川治美氏が課程長に就任する。
・社会情勢や看護の動向に強い関心を持ち、明確な目的意識を持つ受験生を対象とした課題提出型入試制度を開始する。
・本学国際交流センター事業「ネパール交換派遣研修」に本課程の教員1名、学生2名が参加する。

2021年

・准看護師を取り巻く社会環境やニーズの変化を受け、本課程の社会的責務は果たされたものと判断し、学生募集を停止することが理事会で決定される。

2022年

・学生募集停止となり、最後の新入生を迎える。

2023年

・東京都内、金沢市内でのスクーリング開講を終了する。

2025年

・開設以来、2,913名の卒業生を輩出し、20年の歴史に幕を閉じる。

Kobe Tokiwa Junior College
Department of Nursing Correspondence Course 2005 → 2024

長尾厚子先生を偲んで

初代課程長　長尾厚子先生に贈る言葉

神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程の初代課程長でもある通信教育委員長の長尾厚子先生が、2022（令和4）年4月11日にご逝去されました。

長尾厚子先生は2001（平成13）年4月、神戸常盤短期大学が兵庫県下で初となる私立大学としての看護学科の開設と同時に着任されました。当初より実習病院の開拓や、カリキュラム構築にかかる準備に尽力いただくなど、まさに本学の看護学科の礎を築いてこられました。

看護師2年課程（通信制）の教育に対する強い思いから、看護学科通信制課程の設置にも尽力いただきました。2005（平成17）年4月に全国で唯一の短期大学としての同課程を開設、同時に課程長に就任され、通学課程に異動されてからも通信教育委員長として尽力いただきました。在任中は一貫して准看護師から看護師へのキャリアアップの重要性を唱えられ、リカレント教育を実践されてきました。同課程の設置・開設に向けて、文部科学省はもちろん、各地の看護協会を訪問され、その思いを熱く語られていた姿が思い起こされます。

同課程がその社会的役割を果たしたと判断され、2022（令和4）年4月をもって募集停止となった直後の急逝だったため、全ての学生を送り出すことを見届けられなかったことは、心残りではなかったかと思料いたします。

長きにわたり、本学の看護教育を支えてくださった長尾厚子先生のご貢献とご功績を偲び、同課程への生前の思いを紹介させていただくとともに、卒業生と関係者からご寄稿いただきました。

改めまして、先生のご遺徳を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

本学でのご略歴

平成13年4月	神戸常盤短期大学 看護学科　講師
平成16年4月	神戸常盤短期大学 看護学科　教授
平成17年4月	神戸常盤短期大学 看護学科通信制課程　課程長（～平成20年3月） 神戸常盤短期大学 看護学科通信制課程　通信教育委員長
平成20年4月	神戸常盤大学 保健科学部看護学科　教授
平成27年4月	神戸常盤大学 保健科学部看護学科　学科長
令和4年4月11日	ご逝去

通信制課程への思い

2005（平成17）年7月発行　機関紙「ウィール」より引用

看護学科 通信制課程長
長尾　厚子

学習がスタートして

4月2日の入学式には、通信制課程の入学生は約380名の方が出席されました。そのなかで、看護学科をはじめ他学科の学生とともに学長の式辞、ご来賓からの御祝辞をいただきながら、神戸常盤短期大学の学生としての自覚を高められたことと思います。その後開かれた学習説明会でも、熱心に質問が飛び交い、皆さんの学習への意欲的な取り組みを伺うことができました。

4月29日から始まった春期スクーリングは、連休を活用しながら3日間連続の科目があり、学習とテストに、集中力と体力を使い果たす毎日ではなかったでしょうか。受講者数は、名古屋会場・岡山会場では40名から50名でしたが、本学では210名から180名でした。どの会場の授業風景も、熱心な皆さんの授業への取り組みと、教師陣の皆さんに伝えたい内容への熱い思いの交流があり、スクーリングの効果が発揮できたと思います。

本学の特徴としてのスクーリング科目の設定は、各看護学の専門性を概観し、看護の対象や目的を明確にする内容です。通信制課程の学習は、実習科目以外はテキスト学習がほとんどですが、その中で教師との対面授業をとおして、看護の専門性をどのように考えこれからの学習に備えていけばいいかが発見できたのではないでしょうか。

4月のレポート提出は、延べ498名あり、なかには複数の科目に早くもチャレンジされている方がいました。課題の内容に対する質問、提出方法に関する質問など多くの質問が寄せられ、質問の対応に多くの時間を費やしています。主体的な学習習慣を身につけるためにも、課題の内容をまず自分なりに調べてみることが重要です。テキストをじっくり読み、内容を理解し、課題をよく読み、設題の意図をくみ取り、レポートに取り組む姿勢が重要と考えます。

皆さんの意見のなかで、「この学校を選んで良かった」「入学できて良かった」など、これからの学習への意気込みが寄せられる反面、「学習内容について行けるのだろうか」「わかったことを言語化できない」など不安な内容も寄せられています。それぞれ皆さんは、さまざまな環境のなか、さまざまな動機で通信制課程での学習をスタートしました。わからなかったことがわかる喜び、学ぶことの楽しさも是非味わえる学生生活となるよう、頑張っていただきたいと思います。

2018（平成30）年11月発行　学校法人玉田学園創立110周年記念誌より引用

通信教育委員長
長尾　厚子

通信制課程のこれから

本学看護学科通信制課程は、平成17年に、全国で唯一の短期大学での教育課程として発足しました。卒業生は2,200名を超えました。

発足当時は、就業経験年数が10年以上でしたが、平成27年には「日本再興戦略」による閣議決定において「地域医療体制の充実に向けた看護師養成のため、通信制課程の入学基準を大幅に短縮する」ことが検討され、平成30年4月からは就業経験年数が7年になり、さらに、3年後を目途に就業年限を5年にすることが検討されています。

平成30年度現在、全国の2年課程通信制の養成校は本学を含め16校となっています。1学年の定員は4,180名であり、本学も今年度より150名となっています。いわゆる2025年問題と言われる急速な少子高齢社会の到来に向けて、地域包括ケアシステムの推進に必要な医療介護サービスの確保のため、自律してケアを実践する看護師の必要性は高く、この通信制課程の養成力には期待がかかっています。

卒業生たちの声の中で、「本学で学んだことが自身の人生のターニングポイントとなり、看護師という職業が社会的にも大きな役割を担っていることの責務を感じている。資格を取得したことだけではなく、学んだことの充実感・達成感・満足感で安定し、給与面での安定も含め、対価は非常に高く人生において素晴らしいものになった。卒後、他の大学へ進学、そして大学院で修士号を取得し、学ぶ喜び・楽しさを実感している。」とあります。

今後、入学時の就業経験年数がさらに短縮され、社会の要請に応えるべく、カリキュラムの見直しが必要となってきますが、本学で学んだことに大きな意味や誇りを持ち、自律したケアのできる看護職をひとりでも多く輩出することが本学通信制課程の使命であると考えています。

通信制課程3年間の思い出

元大学事務職員
坂野　治雄

2004年に准看護師を対象とした看護学科通信制課程の設置が決まって、システム創りが始まることになる。本学には通信制課程がなかったので、一から作り上げる必要があった。私自身、通信教育の経験はなく、通信教育課程を持つ6校あまりの大学から資料を取り寄せたり、経験者から話を聞いたりと、全くの手探りからのスタートとなった。携わるのは私と中川朋恵さん（現在経理課ならびに学術推進課在籍中）の2名。果たしてこの人員で、半年という短い期間で出来るのかと危惧したが、2か月も経つうち中川さんの本領発揮で、その思いも杞憂に終わることになる。通信制課程の学生には全てを紙面でもって伝達しなければならないため数多くの冊子を短時間で作り上げる必要があった。今思い返すと綱渡りの連続でこの短期間でよく間に合ったと思う。

兵庫県看護協会の協力を得てこの通信制課程設置に対するアンケートをとり3,000通以上の回答を得、多くの方々がこの制度に期待を寄せていること、また大阪、京都、岡山などで開催された説明会でこの制度への支持を得たことが力となった。

余談ではあるが、30有余年前、私が庶務課に在籍していたある日、慶應義塾大学通信教育課程から教室を貸してはもらえないかという連絡があった。スクーリングか試験会場かで予定していた会場に手違いがあったやに記憶している。本学にとってメリットはないが、おもしろいと思い引き受けたことがあった。通信課程部長が見回りで本学にこられたとき「通信はもうかりますよ。貴学もされては」と冗談交じりに話をされていたのを思い出す。

閑話休題、通信といえば、設立に尽力され初代通信制課程長を務められ、3年前に逝去された長尾厚子先生なしでは語れない。教学課程においての学生との繋がりでは長尾先生であればこそと感じることが多々あった。今風に言えば学生に寄り添った指導をされていたように思う。ご自身が現場を知り、人を指導する経験も持ち合わせながら、持ち前の包容力で指導されていたので、学生からの信頼も厚かった。通信の学生は現役で看護に携わっている方々なので、仕事や人生についての悩みの相談も併せてのことだったのかもしれない。

教学以外の事務的な事柄に関しては、ほとんど任せていただいていたように記憶している。そういう面では非常にやりやすかったと今更のように思い出す。

退職してから2度ほど長尾先生と中川さんと3人で会食したことがある。先生は田舎暮らしへの憧れがあり、丹波のほうで家を買われたとか、妹さんが田舎暮らしをされているとか、また、暇を見つけては友人と旅行をされていた話を聞かせていただいた。私自身、田舎暮らしへの思いもあったり、森林ボランティアグループを立ち上げたりしていたので、共感する内容も多くそのような話も楽しくさせていただいたことを懐かしく思い出す。今はもう話ができないのが残念である。

ここで出会ったこと、ここで学んだこと

2007（平成19）年度 卒業
小原　敦子

私は2006年4月に神戸常盤短期大学看護学科通信制課程に入学しました。

准看護師として3交代の勤務をしながらの学校でしたので、レポートを作りながらいくつものお鍋が焦げ付き使えなくなりました。

学校と言っても通学するわけでもありませんでしたが、スクーリングでいろいろな方に初めて出会うことになりました。

長尾先生と初めてお会いした時は、壇上から話される内容がはっきりとしっかりした言葉で、おっかない人という印象でした。

ただ、看護教育指導技術の概論の授業では、今までエビデンスよりも体で覚えるという、1980年代の病院での教育の中で育った私から言えば、目からうろこの状態だったのを覚えています。

2008年3月、無事卒業となりましたが、一緒に学んだ人たちと会えなくなることが寂しく感じられ「同窓会をしたら」という話に中野先生に賛同いただき、2020年コロナウイルス騒動が始まるまで続きました。神戸常盤短期大学看護学科通信制課程同窓会をタヌキ会と称し、滋賀県の信楽焼、神戸、京都の紅葉、大阪天王寺など色々なところに行きました。

卒業後それぞれが、今働いているところで力を発揮できている話は頼もしく感じ、また、歳を重ねられても生き生きとされている先生方を見ては、自分も頑張らなければと鼓舞することが出来ました。

山中温泉の旅行では長尾先生もお忙しい中御参加いただいて、学校教育の話や看護観など色々な話を聴くことができ、お酒も入っていましたがすごく感銘を受けたのを記憶しています。

訪問看護をするために看護師になりたかった私は、卒業後、訪問看護ステーションに所属し、後3年半ほどで独立をする道を進みました。

その後、神戸常盤大学短期大学部とのつながりは、当ステーションで実習生の受け入れを始めました。

年配の方から若い方まで机で学習する姿を毎年見ては、懐かしく感じ自分のあの時のやる気を思い出すことができました。

現在も仕事を続けていますが、疾患のとらえ方や在宅での生活のあり方、コンプライアンスなど、物事をどうとらえ解決していくかの基本をこの学校で学ばせてもらったと考えています。

この経験を活かし、日進月歩を続ける医療に耳を傾けながら、もう少しの時間、人の助けを借りながら、微弱ながらも“看護”に向き合いながら生きていきたいと切望しております。

卒業生からのメッセージ

困難を乗り越えて成長した日々

2009（平成20）年度 卒業
大島　伴博

私が神戸常盤短期大学の一期生として入学したのは36歳のときで、通信制での学業は決して簡単なものではありませんでした。仕事の合間にレポートやテストをこなすことは、時間的にも精神的にも厳しく、何度も挫折しそうになったことがありました。特に、忙しさに追われ、どうしても集中力が続かない時や、レポートがうまく書けなく何度も再提出になった時には、「このまま続けられるのだろうか？」という不安に押しつぶされそうになることもありました。

初めてのスクーリング授業の登校日、通学路の「常盤坂」にはびっくりしたのが印象的です。汗だくになりながら急な坂道を上りきった時の達成感は、「やれやれ」といった感じで、その道のりはレポートが合格した時のことと被るところがあり、何度も書き直したレポートは、最初は納得いかない結果ばかりでしたが、あの坂道を登りきった時のように、繰り返し挑戦し続けることの大切さを学びました。

また、スクーリング授業では多くの仲間と仲良くなり、なかでも私より年上で当時50歳を超えていたKさんと仲良くなりました。Kさんとはよく最前列の席に座り、色々な話をしていました。この歳で、年齢や経験を超えて、心から支え合える仲間ができたことのありがたさを感じました。

学業生活で特に印象に残っているのは、母性看護学の講師の言葉です。レポートがどうしても合格せず、自信を失いかけていた私は、ある日の授業後に思い切って講師に自分の不安を打ち明けました。その時、講師は優しく、でも力強く「あなたなら必ずできる。焦らず、ひとつずつ進んでいけば必ず道は開ける」と言ってくださいました。その言葉に励まされ、心が軽くなり、再び前向きな気持ちで取り組むことができました。

あの瞬間から、何があっても諦めずに続けることが大切だと感じ、最後までやり遂げる決意を固めました。そして、苦しい日々を乗り越え、無事に卒業できた今では看護師長として働くことができています。看護師長としての役割は、私にとって新たな挑戦であり、責任を感じる毎日ですが、これまでの経験が今の自分を支えています。

今回、看護学科通信制課程が閉科になるのは残念な事ですが、ここで学んで来た事や経験を糧に、これからもどんな困難が待ち受けていても、患者さん一人一人に寄り添い、スタッフと共により良い環境を作り上げていけるよう努力を続けて行きたいと思います。

学生生活を振り返って

2010（平成22）年度 卒業
田野　美紀

神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程で学び、看護師として新たな一歩を踏み出せたことに感謝しています。

私は幼い頃に父を亡くし、母子家庭で育ちました。一日でも早く手に職をつけ家族を助けたい思いで准看護師の資格を取得し、約30年間働いてきました。私が看護師としての進学の道を深く考えるようになったのは、自身の入院生活がきっかけでした。25年前に股関節の手術を受け、約1年の入院生活を経験しました。半年間、寝たきり状態が続き、患者という立場の大変さを身をもって体験しました。その中で、看護師の存在がどれほど大きなものかを知り、いつか、私もこの体験を通して自身の看護に活かすだけではなく他の看護師の方々と共有し、看護観について一緒に考えていけるような立場になりたいと思いました。しかし、准看護師では難しいこともあり、何度か進学も考えましたが、家庭との両立が難しく、その度に諦めてきました。

子供の手が離れて一段落した頃に、病院から進学を勧めていただきました。50歳を目前にし、年齢的な不安が大きくありましたが、病院の後押しもあり思い切って挑戦しようと決心し、神戸常盤大学短期大学の通信制課程に入学しました。入学当初は急性期に配属していましたので、毎日忙しく働いていました。そんな中での学業は決して楽ではなく、特に通信制ならではの学び方に戸惑うことも多くありました。レポートはパソコンで作成し、オンラインで提出しなければならず、慣れない作業に苦戦し、何度か違う教科に誤って送信してしまったことも苦い思い出です。しかし、仕事と勉強の両立が大変な中、職場の理解やサポートがあったおかげで、安心して学びに専念することができました。

また、同時期に3人入学し、他の病院から来ていた仲間とも自然に親しくなり交流を深めることができました。大学に行くと先生や友達に会えるので登校日はとても楽しみでした。会うと必ずレポートの進捗状況の話になり、お互いに励まし合っては泣いたり笑ったりしていたことが走馬灯のように思い出されます。苦労を共にして一緒に頑張ってきた仲間の存在は、私の大切な宝物です。また、娘とも同じ年に国家試験を受けることになり、家族に応援してもらいながら親子で取り組めたことも大きな励みになり良き思い出となりました。目標に向かって頑張ってきたことが実を結び、みんなと一緒に卒業することができ、無事に国家試験に合格することができました。

昨年、定年を迎えましたが、いろんな部署や立場を経験し、今もなお働いています。このように働くことができているのも、あの時の大学での学びが自分自身の日々の看護に活かされているからと実感しています。これからも学び続ける姿勢は忘れず、専門職としての誇りをもって患者様に寄り添える看護を続けていきたいと思います。

神戸常盤大学短期大学部
看護学科通信制課程
閉科へ寄せて

2013（平成25）年度 卒業
松下 亜紀子

母校である神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程が20年の歴史に幕を閉じる事となり、さみしさと先生方をはじめ関係者の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。今回、閉科に際し記念誌寄稿の話を金川先生からいただき、当時の記憶が一気に蘇ってきました。

私が本科に入学したのが2012年の春でした。もともと私は看護師という職業に就きたかったわけではなく、幼いころから脳性麻痺の叔父の生きづらさみたいなものを感じており、障害のある人に関わる仕事がしたいという思いから准看護師という道を選びました。その後、縁あって養護学校で勤務する事となり、そこで重症心身障害児と言われる子どもたちと出会いました。この出会いが私の人生を大きく変える事となりました。言葉を発することがない子どもたちとのコミュニケーションの奥深さとおもしろさの虜となり、その子どもたちの在宅生活の困難さを実感するにつれ、この子たちが暮らしやすい地域になるために自分には何ができるだろう？と考えた時、看護師になりたいという気持ちが芽生えました。当時は子育て真っただ中、正規職員として勤務もしておりましたので、子育て、仕事、勉強、という三足の草鞋がはけるのか？という大きな不安がありました。しかし、今しかない！という思いで神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程入学を決めました。何が何でも必ず2年で卒業する！と強く決意をしたことを今でも鮮明に覚えています。

入学してからは息つく暇なしの2年間でした。毎日深夜までパソコンに向かい、なかなか合格しないレポートとにらめっこ、先生方が書いてくださるコメントに励まされました。スクーリングでは同じ目標を持つ仲間と出会い、励まし合いながら学びました。実習は各専門領域の2日間の見学実習でしたが、そこでの学びをスクーリングで先生方の熱心な講義を聞き深めていく、この帰納的過程が私にはとても価値のあるものとなりました。この大学に来てよかった、准看護師の時代を経て看護師になる道を選んだからこそ経験できる学びだと実感しました。そして目標通り2年で卒業、国家試験合格となりました。

私は今、姫路市で訪問看護ステーションリコスを運営しています。初志貫徹！だれもが普通に暮らせる地域づくりを目指して仲間とともに頑張っています。私にとって神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程で学んだ事が誇りであり、ターニングポイントであったことは間違いありません。

先生方をはじめ関係者の皆様、本当にありがとうございました。閉科となる事はさみしいですが、神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程で学んだ事を胸に、これからも精進してまいります。

2年間の思い出

2020（令和2）年度 卒業
堀井　梓美

私は、高等学校を卒業後、准看護師の学校に進学し、急性期病院に就職をしました。毎日忙しく働きながらも准看護師としてやりがいをもって働いていました。

結婚して子供を授かり、母となり、病院に併設されている託児所に子供を預けることもでき、周りの環境に恵まれながら、子育てと仕事の両立を行ってきました。子供が幼稚園に入った頃、看護管理者の方より、「進学してみない？」と声をかけていただきました。

金銭面や勉強面に不安が強く進学を迷いましたが、家族の協力もあり進学を決意し、子育てをしながら、今の生活を続けながら進学できる学校を探しました。通信制の学校を調べる中で、東京にスクーリング会場のある神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程に出会いました。進学にあたり、大学に問い合わせをしてみると、静岡まで面談に来てくださり、教育理念や教育目標など時間をかけて分かりやすくお話を聞くことができました。通信制のため、自分がイメージしていたものとは全く違っていました。分からないことは電話やメールで敏速に対応していただけること、自分ひとりではなく、先生や仲間と一緒だということ、卒業する時は短期大学士の学位が取得できるということで進学を決めました。4月に入り、東京スクーリング会場に行くと、たくさんの仲間と先生に出会いました。久しぶりの授業で疲労感もありましたが、スクーリングはとても新鮮な気持ちで取り組むことができました。自分が普段行っている看護も、根拠をもって看護できているのかと考えさせられる瞬間が何度もありました。また、先生方の看護に対する熱い気持ちを感じ取ることもできました。自宅ではテキスト学習、課題提出、試験を繰り返し、なんとか合格する日々で、とても辛い時期を過ごしました。臨地実習は、コロナ禍のために数か所だけの臨地実習だけとなってしまいましたが、個別性をふまえた科学的根拠に基づく看護実践を見学することができ、良き学びとなりました。実習が終了し、看護師国家試験対策も先生からの丁寧な指導と励ましもあり、無事に看護師国家試験に合格することができ本当に嬉しかったです。通信制の2年間は、あっという間で、毎日必死にレポート作成・修正に追われていた記憶が鮮明です。この2年間は本当に大変でしたが、先生や仲間、職場のスタッフ、家族に支えてもらった2年間であったため、心から感謝しています。現在は、病棟の看護主任として職務に励んでいます。この2年間の学びを活かし、組織・職場に貢献し、患者さんに良い看護が提供できるように日々努力していきたいです。

「出会いは成長の糧となる」

2022（令和4）年度 卒業
佐伯 明日美

社会人時代の上司の忘れられない言葉があります。「佐伯さんは何のために仕事をしてるの？人生の長い時間を使うなら、お金の為だけじゃなく、自分自身を成長できるような働き方をしなさい。」私は社会人経験後に准看護師となり、次の進路として、現状の生活と両立が出来る通信での進学に決めました。7年の実務経験を積む中で、私は学問的に看護を学びたいと思い、閉科目前の神戸常盤大学短期大学部に入学できた事に運命を感じます。

入学時はコロナ禍で緊急事態宣言の時期でした。私が勤務していた小豆島の病院も、高齢者の多い離島唯一の総合病院で、感染を島内へ持ち込まないよう厳戒態勢をとっていました。世界的に大変な時期でしたが、先生方の柔軟な対応と寄り添った応援で安心して学生生活がスタートできたのを覚えています。１年目は１人でレポートと戦う日々でした。不合格で返ってくるレポートは悔しいものでしたが、さらに深めていくと新しい世界が広がり、アハ体験で楽しく課題に向き合えました。２年目は実際に先生たちの人柄や看護観に触れながら、専門的な知識を学べました。今までの経験と新たな知識がパズルのようにはまっていく充実した2年間でした。

不思議で面白い松原先生。話を聞けば聞くほど男前な小坂先生。なんでも相談できるオシャレな川邊先生。「見えないものを見て、聞こえない声を聞く」と教えてくれた丸岡先生。飴と鞭で守ってくれた山岡先生。お茶目な中野先生。もっと話が聞きたかった高宮先生。研究室で重症患者さんの看護の仕方をかっこよく教えてくれた金川先生。国家試験前、子どもに脳腫瘍が見つかり先の見えない不安な時期を支えてくれたチューターの西森先生。そして一緒に学び、笑い、仲良くしてくれた同級生。素敵な人達に囲まれた、忘れられない学生生活です。

卒業後は、看護学士を取得し、心の支えとなった大切な子ども達と島を飛び出す決断をしました。大阪の急性期病院へ環境を変え、現在はクリティカルケアの勉強をしています。メディカルラリー・子どもメディカルラリー・スポーツ救護などでもたくさんのご縁が広がり、大学での学びや経験が生かされ、多くの人に支えられながら楽しく看護師として活動しています。

「医療には限界があるが、看護には限界がない」「常に患者さんのために」そう自信を持って言えるよう自己研鑽し、これからも成長していきます。たくさんの学びで私を成長させてくれたことに感謝しかありません。本当にありがとうございました。

学ぶということ

2023（令和5）年度 卒業
高松　菜穂

入学のきっかけは、看護協会で行われた准看護師ステップアップ研修での高宮教授の講義でした。「この大学で学びたい！」と強く思いましたが、それを可能にしたのは金沢スクーリングの存在でした。

自分がやりたいことのために家族に負担を掛けられない状況だったため、家庭も仕事も学業も、両立できなければ進学できないというハードルがありました。遠方への通学を最小限に抑えられたことが両立への希望となり、入学の一歩を進めることができました。

入学後はひたすら自分との闘いでした。投げ出したくなる時もありましたが、熱く教えて下さる先生方、同じ志を持った仲間たちに支えられ最後まで走り切ることができました。

中でも印象に残っているグループワークがあります。車椅子から立ち上がろうとする患者さんの安全を、どのようにすれば守ることができるかというものでした。オーバーテーブルを前に置いてロックをする、車椅子の拘束ベルトを使用する、などの意見が出た中、「拘束をしない方法はないですか？」という問いかけが先生からありました。なかなか答えが出ず頭を抱えていた時、「人間の身体はどうしたら立ち上がることができますか？」という助言がありました。皆で立ち上がる時の動作を何度も繰り返す中で、前かがみになり、膝辺りに重心を置き、足を引いて体重移動をしながら立ち上がる動作をしなければ立てないことに気づきました。それを応用し、患者さんの太腿下（膝寄り）に丸めたバスタオルを置いて、後方に重心がいくように座ってもらうことにしたのです。これにより突発的な立ち上がりを防ぎ、「転倒をさせない」看護につなげることができました。もちろんこの行為も、広義で考えれば立ち上がりたい患者さんの意思を阻害した拘束です。しかし、尊厳を最大限に尊重した形で安全を守ることができる方法だったのではないかと私は思います。

この講義を通じて、学ぶことの本当の意義を教えていただきました。知識を得て、「患者さんの生活を整える」ために活用する。知識がなければアイディアは生まれない。知識があっても活用しなければ宝の持ち腐れ。この学びは、今の私の原動力となっています。一人でも多くの患者さんの生活を整えることができるよう、今の自分にできる看護に全力で邁進している毎日です。「看護が大好き！」と、5年後も10年後も胸を張って言えるような看護師を目指して、これからも頑張ります。

Kobe Tokiwa Junior College

Department of Nursing Correspondence Course 2005 → 2024

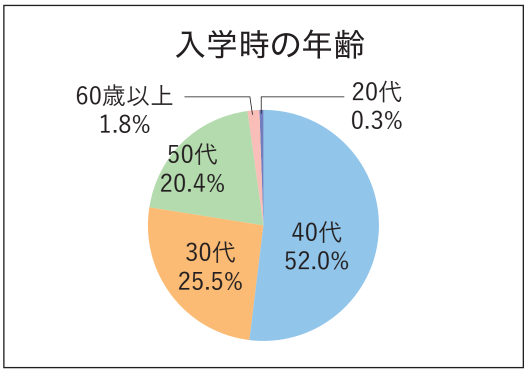
卒業生
アンケート調査

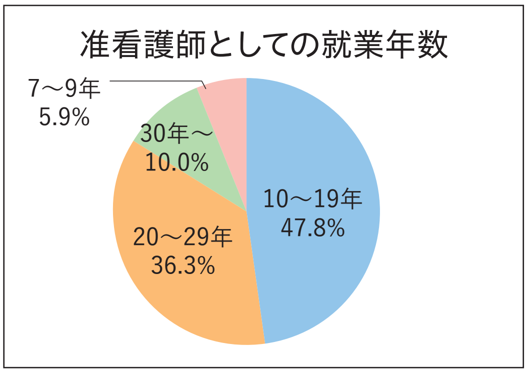
卒業生アンケート調査

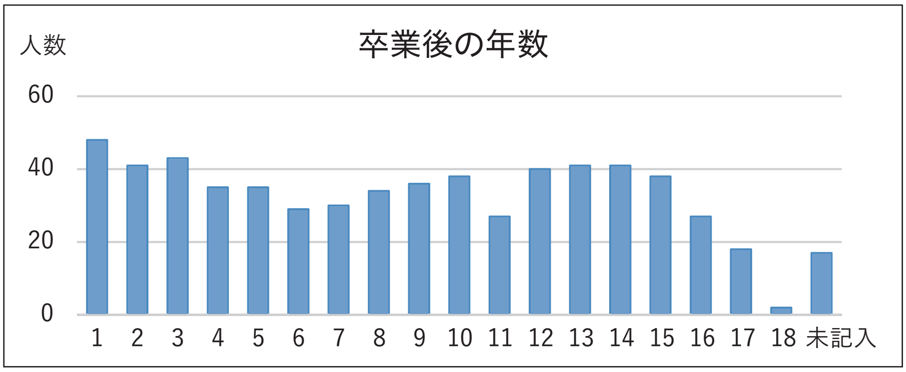
2024年8月、開設から2024年3月までの卒業生2,252名にアンケート調査を行い、620名から回答を得た。

【対象者の背景】

入学時の年齢と准看護師としての就業年数及び卒業後の年数は図表に示すとおりである。

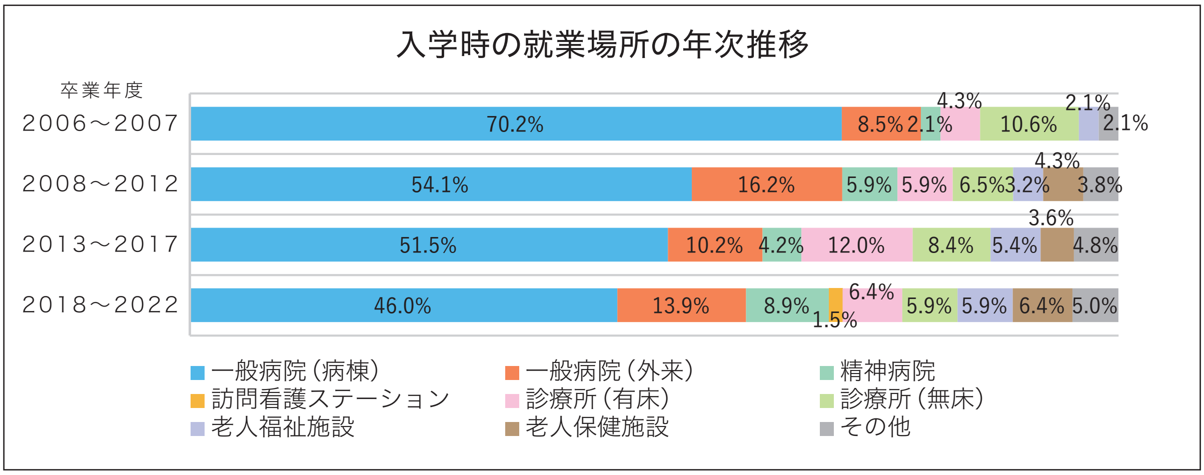






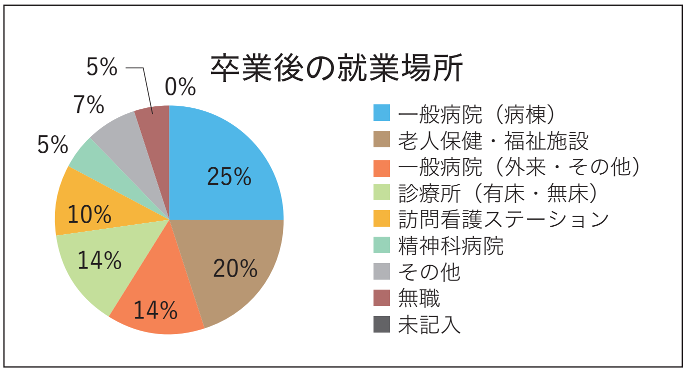
【准看護師の就業実態】

准看護師の就業実態を知る資料として、入学時の就業場所を入学年度別に示した。一般病院で就業している准看護師は徐々に減少しており、特に病棟経験がある者の比率は創設当初の2006～2007年度の卒業生は70.2%であったが、2018～2022年度の卒業生では46.0%と下がってきているのがわかる。このことは、准看護師としての看護実践体験を前提とする2年課程（通信制）の教育を難しくしている要因の1つであるといえる。



【卒後の動向】

卒業後の就業場所は一般病院が最も多く病棟25％、外来14％だった。老人保健・福祉施設20％、以下診療所・クリニック、訪問看護ステーションの順に続いていた。また、学校（大学や看護学校）や地域包括支援センターなどで働いている者もおり、各方面で活躍していることが伺えた。



《その他の就業場所》　（人）

学校（大学・看護学校等）	11
障害者福祉施設等	11
保育園等児童福祉関連施設	5
地域包括支援センター	5
血液・健診センター等	4
その他	8

本学に2年課程（通信制）を設置した目的の１つである「卒業後のキャリアアップの道を広げる」に関しては、164人がなんらかの職位を有していた。最も多いのは主任64人で、看護師長42人、所長・管理者25人、看護部長・副部長10人など管理的な役割を担っていた。学位及び資格では、50人が学位を、85人が資格を取得していた。学位の取得は短期大学を選択する理由の一つであるが、大学士36人、修士13人、博士1名が学位を取得しており、看護師資格の取得に留まらず、卒業後の学習継続に繋がっていた。また、これ以外にも、就学しながら進学することが困難であるとしながら進学を目指して準備していると回答したものが複数名いたことからもキャリアアップを目指していることが示されていた。資格ではケアマネジャー、認定看護師、社会福祉士以外にも、NST専門療法士、認定心理士など看護関連外の資格等とても多岐にわたって取得していた。

現在の職位

職位	人数
看護部長・副部長	10
看護師長	42
主任	64
所長・管理者	25
その他	23
合　計	164

卒後取得した学位

学位	人数
大学士	36
修士	13
博士	1
合　計	50

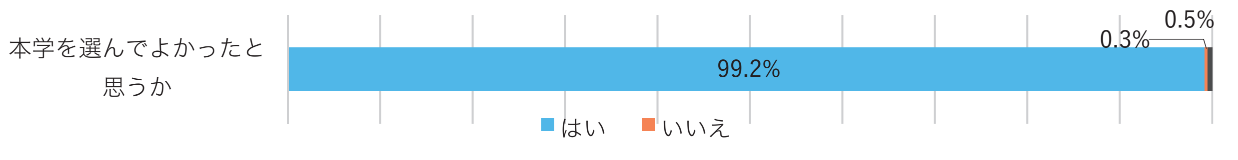
卒後取得した資格（複数回答）

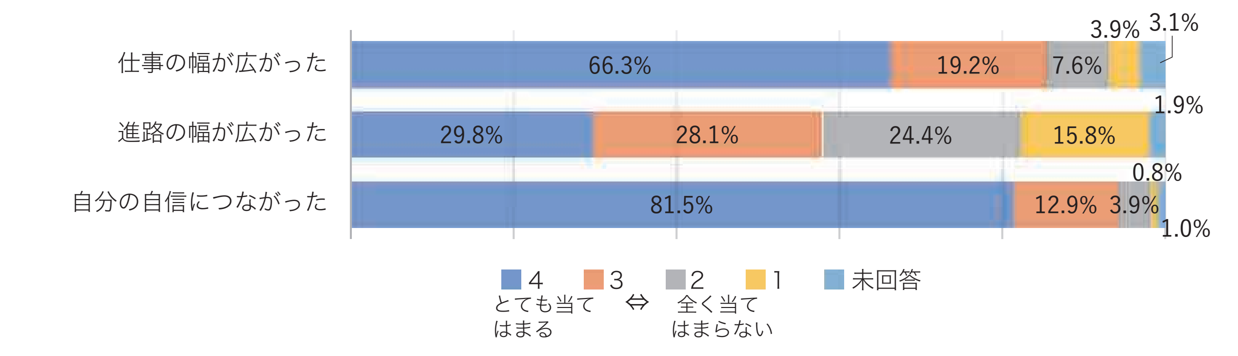
資格	人数
ケアマネジャー	13
認定看護師	7
社会福祉士	4
介護福祉士	3
精神福祉士	1
その他	57
合　計	85

【本課程の教育に対する意識】

・99.2％が本学を選んで良かったと回答していた。

・卒業したことによる変化では、85.5％が仕事の幅が広がった、57.9％が進路の幅が広がった、94.4％が自分の自信につながったと回答した。



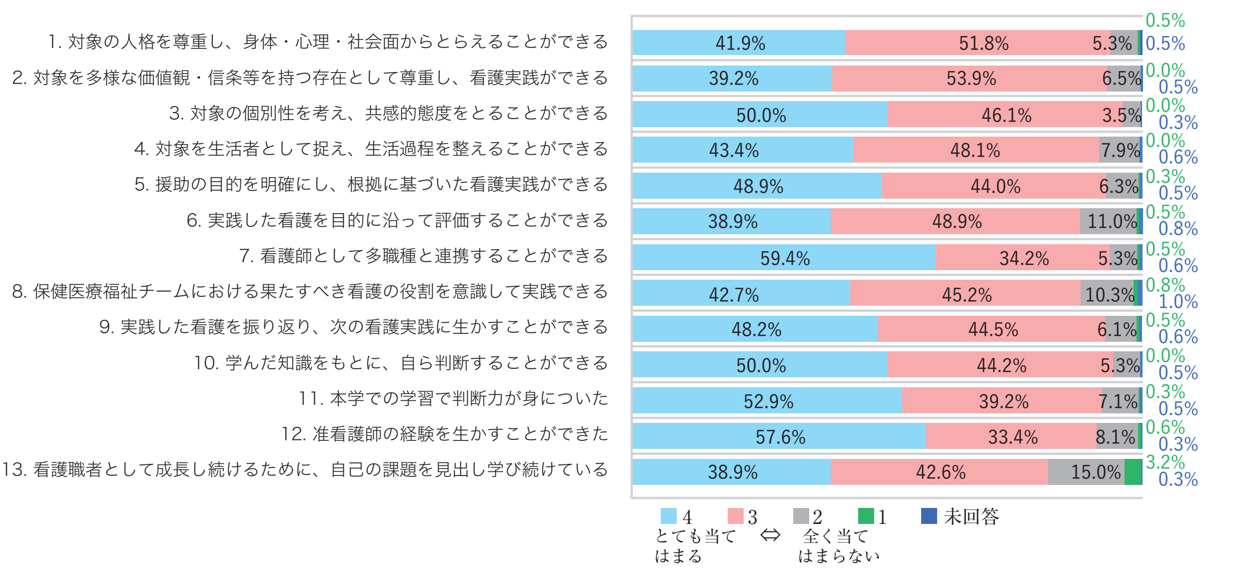


・ディプロマポリシーに基づいた卒業生の評価では、「本課程のディプロマポリシーに基づいた卒業生の自己評価（13項目）」について4件法で回答してもらったが、全項目において80.0％以上の卒業生が肯定的に評価していた。

看護学科通信制課程のディプロマポリシー

1．対象を全人的にとらえ、専門職業人としての倫理観を持って行動する力
2．科学的根拠に基づいて看護を実践し評価する力
3．保健医療福祉チームの中で、看護専門職の役割と機能を果たす力
4．看護を探究し、科学的思考を基盤に発展させる力

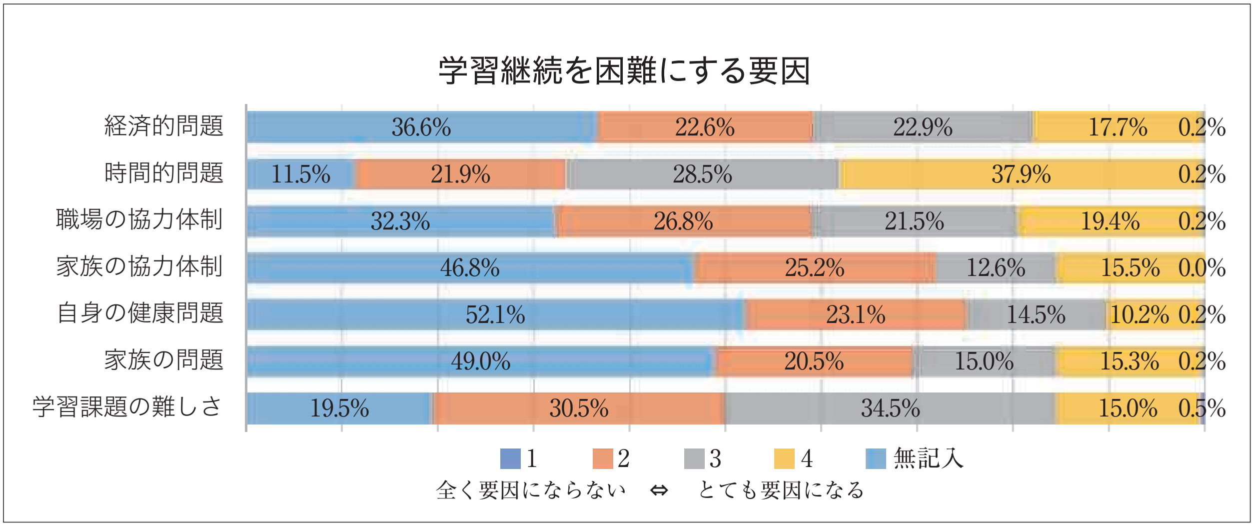
ディプロマポリシーに基づいた卒業生の自己評価（13項目）

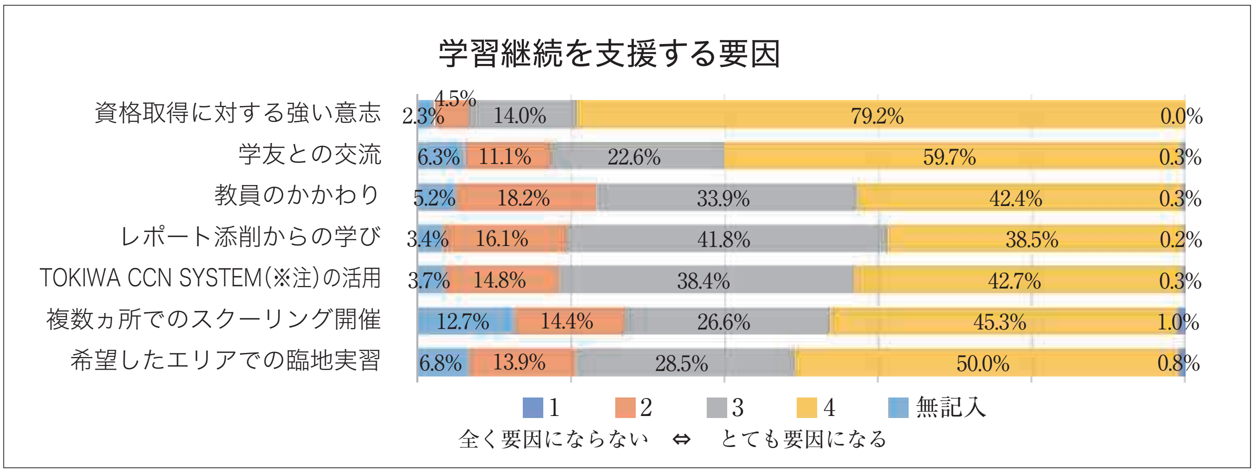


・本課程の教育についての自由記述で、学友や教職員との人間関係に関して、同じ体験をしている学友に対して「意識が高い」と感じ、その交流と教員からの励ましや助言から学習を継続する力を得ただけでなく、その出会い自体に対して自身にとって大きな意味があったと考えていた。教育内容に対しては、講義内容や課題の難しさ、レベルの高さを感じながらも看護を学べた・学ぶことの大切さを知れたなど困難性と達成感の両側面を示していた。また、看護を専門的に学ぶことで現象を論理的に深く考え、根拠に基づいて看護を実践できるようになるなどの自分の変化が卒業後の学びにもつながっていた。TOKIWA CCN SYSTEM（※注）を活用した教育方法は効率的であるとしていた。自分の変化について、大学進学や資格を取得する又は目指しているなどの卒業後の行動と問題解決能力や根拠をもって実践するための思考力が身に付き、役職についたり専門学校で講義を依頼されるなどの体験が自信につながって自己概念を高めていた。2年課程（通信制）という教育制度については、この課程があったことで、准看護師にとどまらず進学を決意し学習が継続できたという意見や家庭を持ち仕事をしながら進学することの困難さに対して、この課程の存在で看護師免許を取得するという目標達成を実現できたことを示していた。さらに、本学（神戸常盤大学短期大学部）を選択し学んだ事については、看護師資格だけでなく短期大学士という学位を得たことが自信につながったなど学歴に対する思いを示していた。また、本学の学習支援対策は、学習継続を支援したと感じていた。さらに、レベルが高い教育を受けたという実感と卒業後に職場で高い評価を受けたことが本課程で学んだことの価値であるという意識を示していた。これらの本課程での教育及び支援体制が、卒業生の自己評価を高くした要因と考えられる。調査結果の分析については神戸常盤大学紀要Vol.18にも掲載している。

【学習支援に関する意識】

学習支援を評価するために学生が考える学習継続を困難にする要因と支援する要因について聞いた。文献で学習継続に関する要因として言及されている内容を抽出し、実際に影響していたかを調べた。





自由記述の内容からは、困難にする要因と支援する要因のどちらにもかかわっている項目がみられた。例えば、学習課題の難しさは継続を困難にすると考えていたが、課題をこなした時の達成感や学ぶことの楽しさや学びの価値を感じるなど、支援する要因としても捉えていた。

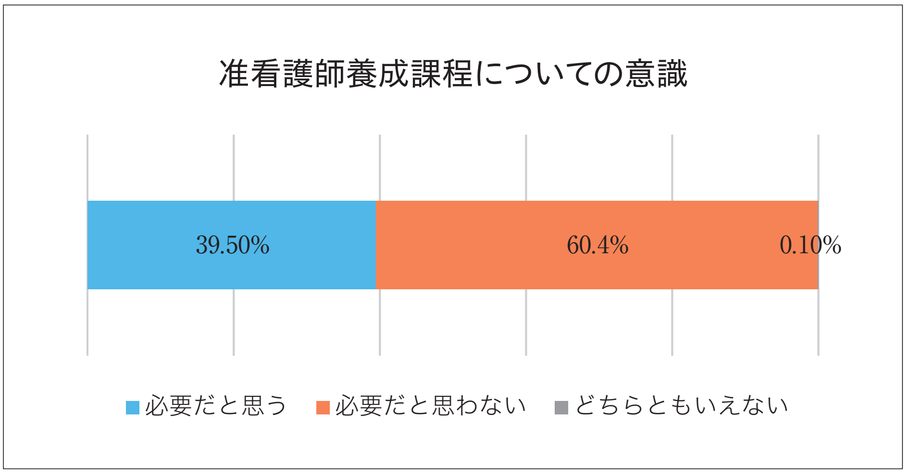
教員や学友とのかかわりは、多くの学生が支援する要因ととらえていたが、「学友ができない」「教員と上手くかかわれない」などの逆の要因となるケースもあった。又、抽出した項目以外で最も多かった要因はモチベーションの維持に関することで、学習意欲の低下、孤独感、学習力の低さ等マイナスの内容と、学ぶという決断をした自身の強い意志、看護学の学習の楽しさに対する気づき、職場からの評価等プラスの内容の双方から挙げられていた。継続を困難にすると考えていた要因が継続を支援する要因にもなっていることを認識して学習支援を計画する事が必要であることがわかる。

本課程では、これらに対する学習支援として、まず入学直後に対面授業を専門科目で8単位（12日間）設けているが、この時間を教員や学友との交流の場として活用することで、通信教育を受ける上での孤独感の軽減を図った。同時に、科目は看護を学ぶ上での基本である看護過程や指導技術、領域別の概論などを対面で開講することで、対象のとらえ方や看護実践の目的、看護の思考過程を早期に理解し、その後の学習の動機付けも図った。レポート科目の課題に関しては、科目の到達目標は堅持しながら目標に到達するための問い方の工夫を加えてきた。学生にとっては難しかったかもしれないが、挫折せずに合格したことで達成感と看護の楽しさの実感に繋がっていたことは、この教育の成果であるといえる。又、添削コメントでの指導では、相手の反応が見えないため言葉を慎重に選んだ。これは、卒業生の意見にも多く記述されてたが学生の自尊心を低下させずに自己効力感を高めていた。

【准看護師養成課程についての意見】

准看護師養成停止の議論は膠着したまま、看護師2年課程（通信制）の教育は20年以上が過ぎたが実際にこの教育制度を体験し看護師資格を取得した卒業生が振り返って、准看護師養成課程についてどのように考えているのかを調査した。

40％が必要、57％が必要ないと解答して賛否が分かれた。その理由としては、必要と答えた意見の中でも教育内容の違いは認識しているものの、経済面や家庭環境等の生活背景と人手不足対策などを考えると准看護師養成制度があったほうが看護職につきやすいというもので、不要と考える理由は教育内容の違いを第一に挙げ、看護師と准看護師の役割の違いを認識する准看護師養成の内容では不十分であるとし、遠回りになるというものだった。



このアンケート調査結果から、本学の卒業生が卒業後、看護師免許の取得にとどまらず、短期大学士の資格を活用して学修を継続し、キャリアアップを目指していることがわかった。この結果報告を20年間の本課程の教育成果のアウトプットとする。

（※注）
本学ではレポートの提出やテキスト修了試験を受験するなどのテキスト学習の一部や学生と教員との質疑応答、コロナ禍における動画配信等に「eラーニング」を取り入れており、このシステムに「TOKIWA CCN SYSTEM（トキワ　シーシーエヌ　システム）」という愛称をつけていました。
CCNとは「Correspondence Course of Nursing」（看護学科通信制課程）の略語です。

Kobe Tokiwa Junior College

Department of Nursing Correspondence Course 2005 → 2024

看護学科通信制課程
卒業生座談会

（学校法人玉田学園創立110周年記念誌より引用）

看護学科通信制課程　卒業生座談会

テーマ　今に繋がる学び

平成30年6月21日

内海 英樹
通信制課程事務課
課長補佐（司会）

中野 順子 教授

髙宮 洋子 特任教授
前通信制課程長

弥勒 康志
11期生　看護師
京都市立西総合支援学校勤務

新田 智香
6期生　助産師
聖隷淡路病院勤務

笠木 陽子
5期生　看護師
訪問看護ステーション翔勤務

（※所属・役職等は当時のもの）

内海　本日は、短期大学部看護学科通信制課程をご卒業され、各職場で活躍されている3人の卒業生と2人の先生方にお集まりいただいています。

苦労したレポート執筆が、すべて今に活きる

内海　在学中それぞれに苦労されたことについてお話ししていただけますか。

新田　レポートを何回出しても合格しなかったときはやっぱり辛かったですね。

弥勒　私は、特に「母性」は、なかなかわからなくて苦労しました。でも看護師としてそれも大切なことですし、自分なりにとらえて何とか合格しました。先生方が採点とともにコメントを書いてくださっていて、その言葉にとても救われました。

髙宮　不合格は決して否定ではなく「がんばれ」というエールなんです。そのまま合格を出すとそこで終ってしまう。

「神戸常盤の通信制はむずかしい」と言われているようですが、それは皆さんが現場で「通信制の卒業生だから」と言われないよう力を付けて卒業してほしいと心を鬼にしているんですよ（笑）。

笠木　合格さえしたらそれでいいという気持ちでした。でも、卒業してみると学んだことがとても役に立っているのです。むずかしいレポートを一つひとつ書き上げて身に付いたからこそ、今があるのだと実感しています。文章力も付いたので、今も役に立っているんですよ。

中野　あるレポートで7、8回もやり取りされた卒業生が「あのときは本当に大変だったけれど、今、とても役に立っていて感謝しています。」と言っておられました。

弥勒　やはり身に付いたのは、粘り強さ。この一言に尽きますよね（笑）。決してあきらめないことが大事なんです。〝むずかしい〟常盤を卒業できたことが、大きな自信になっています。

家族、職場の方たちからの応援が励みに

内海　皆さんを応援してくださった方たちのお話を伺えますか。

新田　私は家のリビングでパソコンを開いて勉強していたのですが、それを子どもが見ていてくれたからか、大学に進学したいと勉強しています。自分の姿を見てがんばってくれる人がいて嬉しいです。

弥勒　私が勉強していた頃、息子が小学校低学年で

した。仕事から帰っても勉強して、休日も勉強していて、一緒に遊ぶ時間が少なかったんですが、子どもががまんして応援してくれたからこそ、卒業できたんだと思っています。自分一人では何もできなかったと思います。

笠木　私の子どもはもう大きかったので、いろいろと応援してくれました。職場の人たちにもとても励ましてもらいました。とくに私の背中を押してくれた院長には「あなたなら必ずできるから」と励ましてもらえて心強かったです。

髙宮　看護師になられて、お子さんはどんな反応でしたか。

弥勒　「おめでとう！がんばってたね」と喜んでくれました。今、看護師を目指したいと言ってくれるのが嬉しいですね。

新田　私の子は、男の子なので特に何も言わなかったですね（笑）。

髙宮　やはり家族が支えてくれるんです。周りのいろんな人に助けてもらえることも、その人の大きな力だと思いますよ。そういう力はその場にならないと出てこないものなんですよね。

卒業後、さらに広がる活躍の場

髙宮　卒業生の中にはさらに続けて勉強したいと、修士課程を修了されて大学の先生をしながら、海外に出られたり、活動の幅を広げていらっしゃる方も増えてきているようです。新田さんは卒業後、助産師の資格を取得されていかがですか。

新田　出産が少なくなっていることもあって、今の職場はミックス病棟です。助産師としては、お産だけじゃなくて、妊娠時の健康状態をみたり、出産後の子育てへも繋がっていくことなので、次の子どもを産むことを躊躇しないようにしっかりサポートしていきたいと考えています。

笠木　資格を取ったことで、訪問看護ステーションを開設できるようになったことは大きなプラス面です。また、私の友達で精神の分野を勉強したとき、関わったことがない分野だったのでイメージがなかなかわかなくてレポートにとても悩んだという人がいます。勤務していた科から精神科へ移り、そこでも学びがあって、今は大学に進みたいと話しています。

髙宮　資格を持つことで、その能力がもっと伸ばせますね。責任ある場を与えられたり、学会など学ぶ場に行けるようになったり。

弥勒　おっしゃるように、指導的な立場など責任のある立場に置かれるようになりました。私の職場は支援学校なので、教育現場で、どうやって看護を入れていくのか、常に考えながら取り組んでいます。

髙宮　教育とは教えるのではなく、学べる力を伸ばしていくことだと思うんですね。教育と看護それぞれの視点からのアプローチの仕方は違っていても、思いは同じですものね。

弥勒　後輩で「看護師を目指そう」という人が増えたら嬉しいですね。自分が手本にならないといけないなと思っています。そして、私ももう少し先にはなりますが、何か新しい挑戦をしようと考えています。レポートでせっかく文章力も付けられたので活かしたいです（笑）。

中野　思いを抱き続けていれば大丈夫ですよ。年齢じゃないですよね。やろうと思えばいくつになってもできますよ。

髙宮　平成19年の第1期卒業生の中に70歳の方がいらっしゃいました。退職後、地域でバリバリと活動されています。看護という仕事はさまざまなかたちで地域に貢献できるのです。

中野　皆さんのように、現場で後に続く人たちのために活躍していただけたら嬉しいですね。

髙宮　皆さんの今後のご活躍を応援しています。

内海　本日は、ありがとうございました。

（敬称略）

Kobe Tokiwa Junior College

Department of Nursing Correspondence Course 2005 → 2024

資　料

1 神戸常盤大学短期大学部　看護学科通信制課程の教育課程について

建学の精神

学問と実践、研究と技術を直結することによって、すぐれた職業人、生活にすぐれた能力を持つ有為の人材を養成し、社会的、地域的要請に応えんとするものであること。

教育理念

現代社会の多様なニーズに対応できる高い資質を備えた専門職業人を育成するために、看護に対する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、あわせて『いのち』に対する豊かな感性と幅広い人間性を養うことを教育の基本とする。

看護の対象である人々の主体性や価値観を尊重し、人々が最良の状態で生活し、自己実現を図るための的確な看護判断と実践の基礎的能力を備えた看護師の育成をめざす。

教育目標

1．人間を身体的・精神的・社会的に統合された多様な価値観を有する存在として全人的に理解する能力を養う。
2．専門職業人として人間の相互関係のあり方を見つめ直し、共感的理解と倫理感をもって行動する態度を養う。
3．人々の健康を自然、社会・文化的環境とのダイナミックな関係において理解する能力を養う。
4．個人・家族・地域社会の人々に対して、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基本的能力を養う。
5．保健・医療・福祉チームの一員としての、看護職の機能と役割を自覚し、その責任を果たす基礎的能力を養う。
6．常に自己啓発するとともに、自己の看護観を明確にし、追求することを通して、看護を発展・展望する看護専門職業人としての態度を養う。

アドミッションポリシー

1．豊かな人間性を持ち、人間やいのちに対して深い関心を寄せ、尊重できる人
2．准看護師としての基礎的知識を備えている人
3．物事に対して論理的に思考する人
4．自分なりの看護観を持って看護を探求する姿勢のある人

カリキュラムポリシー

教育理念に基づき高い資質を備えた専門職業人を育成するために「トータルヒューマンケア」「発達する人間」「ケアリング」「ホリスティックな健康」を柱とし、基礎分野・専門基礎分野・専門分野に区分設置し、有機的かつ系統的にカリキュラムを編成した。

1．基礎分野は、人間を全人的にとらえ、かつ科学的な思考力を高め、共感的態度、倫理観、論理的思考を養うための教育内容とした。
2．専門基礎分野は、看護学を専門分野として位置づけ、対象の生活過程を整える観点から、その専門領域を支える基礎となる教育内容とした。
3．専門分野の基礎看護学は、各看護学に共通の基礎的理論や基礎的技術を学ぶ内容とした。これを中核に各看護学分野では、対象の発達段階・健康段階・場の特性に応じて深化させる内容とした。また、各看護学分野は概論・援助論・演習・実習と既習内容を効果的に積み上げていけるよう配列した。更に統合分野では、あらゆる発達段階・健康段階・場において判断能力、問題解決能力、実践力の育成を図る内容とした。
4．臨地実習では、勤務経験によって得られた“看護体験”を帰納的な思考プロセスをたどることにより、整理発展させることを目的に既修得学習から根拠に基づいた看護実践力を養う内容とした。

ディプロマポリシー

1．対象を全人的に捉え、専門職業人としての倫理観を持って行動する力
2．科学的根拠に基づいて看護を実践し評価する力
3．保健医療福祉チームの中で、看護専門職の役割と機能を果たす力
4．看護を探求し、科学的思考を基盤に発展させる力

2 カリキュラムについて

2005（平成17）年度～2009（平成21）年度　カリキュラム表

区分		授業科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	開講時期 1年	開講時期 2年	備考
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	T		2	○	○	8単位以上選択必修
		化学	T		2	○	○	
		生物学	T		2	○	○	
		論理的思考演習	T		2	○	○	
	人間と人間生活の理解	生命と倫理	T		2	○	○	
		教育と人間	T		2	○	○	
		生涯発達論	T		2	○	○	
		家族と社会	T		2	○	○	
		生活と法	T		2	○	○	
		カウンセリング論	T		2	○	○	
		医学英語	T		2	○	○	
専門基礎分野	人体の構造と機能	看護解剖生理学	T	2		○	○	
		生化学	T	2		○	○	
	疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	T	2		○	○	
		病原微生物学･免疫学	T	2		○	○	
		薬理学	T	2		○	○	
	社会保障制度と生活者の健康	公衆衛生学	T	1		○	○	
		保健医療福祉総論	T	2		○	○	
		関係法規	T	1		○	○	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	T	2		○	○	
		看護対人関係論	T	1		○	○	
		看護過程	S	1		○	○	
		看護行為論	T	1		○	○	
		看護教育指導技術	S	1		○	○	
		看護と研究	T	1		○	○	
	在宅看護論	在宅看護概論	S	1		○	○	
		在宅援助論	T	2		○	○	
	成人看護学	成人看護学概論	S	1		○	○	
		成人援助論	T	2		○	○	
	老年看護学	老年看護学概論	S	1		○	○	
		老年援助論	T	2		○	○	
	小児看護学	小児看護学概論	S	1		○	○	
		小児援助論	T	2		○	○	
	母性看護学	母性看護学概論	S	1		○	○	
		母性援助論	T	2		○	○	
	精神看護学	精神看護学概論	S	1		○	○	
		精神援助論	T	2		○	○	

区分		授業科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	開講時期 1年	開講時期 2年	備考
専門分野	臨地実習	基礎看護学演習	T	2		○	○	
		基礎看護学実習	PS	1		○	○	
		在宅看護論演習	T	1		○	○	
		在宅看護論実習	PS	1		×	○	
		成人看護学演習	T	2		○	○	
		成人看護学実習	PS	1		×	○	
		老年看護学演習	T	1		○	○	
		老年看護学実習	PS	1		×	○	
		小児看護学演習	T	1		○	○	
		小児看護学実習	PS	1		×	○	
		母性看護学演習	T	1		○	○	
		母性看護学実習	PS	1		×	○	
		精神看護学演習	T	1		○	○	
		精神看護学実習	PS	1		×	○	
合　計				55	22			

T………テキスト学習
S………スクーリング
PS……見学実習＋実習スクーリング

2010（平成22）年度～2024（令和6）年度　カリキュラム表

区分		授業科目	授業形態	単位数		開講時期		備考
				必修	選択	1年	2年	
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	T		2	○	○	8単位以上選択必修
		化学	T		2	○	○	
		生物学	T		2	○	○	
		論理的思考演習	T		2	○	○	
	人間と生活・社会の理解	生命と倫理	T		2	○	○	
		教育と人間	T		2	○	○	
		生涯発達論	T		2	○	○	
		家族と社会	T		2	○	○	
		生活と法	T		2	○	○	
		カウンセリング論	T		2	○	○	
		医学英語	T		2	○	○	
専門基礎分野	人体の構造と機能	看護解剖生理学	T	2		○	○	
		生化学	T	2		○	○	
	疾病の成り立ちと回復の促進	症候論	T	2		○	○	
		病原微生物学･免疫学	T	2		○	○	
		薬理学	T	2		○	○	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	T	1		○	○	
		保健医療福祉総論	T	2		○	○	
		関係法規	T	1		○	○	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	T	2		○	○	
		看護対人関係論	T	1		○	○	
		看護行為論	T	1		○	○	
		看護教育指導技術	S	1		○	○	
		看護と研究	T	1		○	○	
	臨地実習	基礎看護学演習	T	1		○	○	
		基礎看護学実習	PS	1		○	○	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	S	1		○	○	
		成人援助論	T	2		○	○	
	老年看護学	老年看護学概論	S	1		○	○	
		老年援助論	T	2		○	○	
	小児看護学	小児看護学概論	S	1		○	○	
		小児援助論	T	2		○	○	
	母性看護学	母性看護学概論	S	1		○	○	
		母性援助論	T	2		○	○	
	精神看護学	精神看護学概論	S	1		○	○	
		精神援助論	T	2		○	○	
専門分野Ⅱ	臨地実習	成人看護学演習	T	1		○	○	
		成人看護学実習	ＰＳ	1		×	○	
		老年看護学演習	T	1		○	○	
		老年看護学実習	ＰＳ	1		×	○	
		小児看護学演習	T	1		○	○	
		小児看護学実習	ＰＳ	1		×	○	
		母性看護学演習	T	1		○	○	
		母性看護学実習	ＰＳ	1		×	○	
		精神看護学演習	T	1		○	○	
		精神看護学実習	ＰＳ	1		×	○	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	S	1		○	○	
		在宅援助論	T	2		○	○	
	看護の統合と実践	看護過程	S	1		○	○	
		看護過程演習	T	1		○	○	
		看護管理	T	2		○	○	
	臨地実習	在宅看護論演習	T	1		○	○	
		在宅看護論実習	ＰＳ	1		×	○	
		看護マネジメント演習	T	1		○	○	
		看護マネジメント実習	ＰＳ	1		○	○	
合　計				58	22			

Ｔ………テキスト学習
Ｓ………スクーリング
ＰＳ……見学実習＋実習スクーリング

カリキュラム概念図とカリキュラム編成

教育理念

現代社会の多様なニーズに対応できる高い資質を備えた専門職業人を育成するために、看護に対する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、あわせて「いのち」に対する豊かな感性と幅広い人間性を養う。

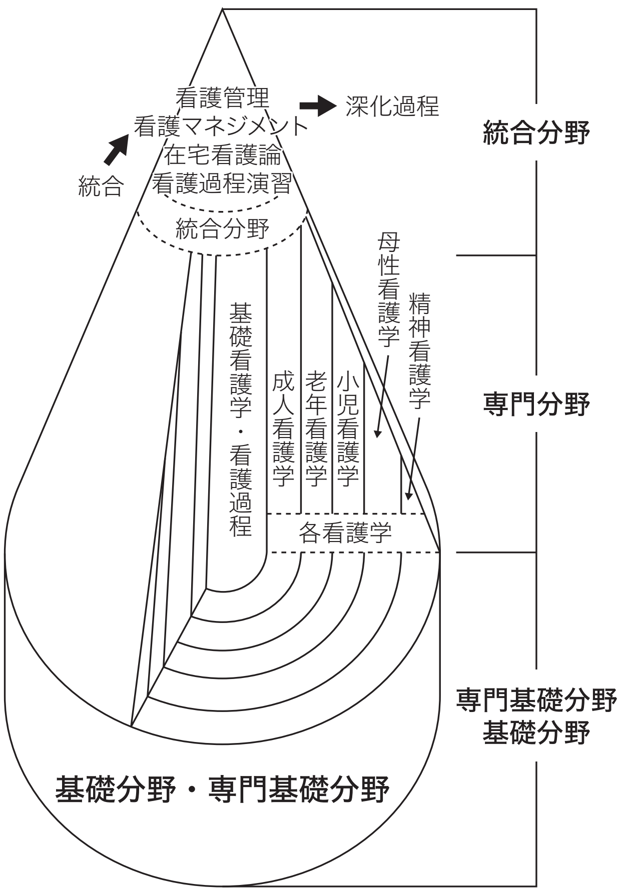
看護の対象である人々の主体性や価値観を尊重し、人々が最良の状態で生活し、自己実現を図るための的確な看護判断と実践の基礎的能力を備えた看護師を育成する。

教育目標

1．人間を身体的・精神的・社会的に統合された多様な価値観を有する存在として全人多岐に理解する能力を養う。

2．専門職業人として人間の相互関係のあり方を見つめ直し、共感的理解と倫理観をもって行動する態度を養う。

カリキュラム概念図



		ディプロマポリシー	①対象を全人的に捉え、専門職業人としての倫理観を持って行動する力	
			思考・判断・表現	関心・意欲・態度
カリキュラムポリシー		到達目標 ／ 分野／区分	人間を全人的に捉え思考することができる	専門職業人としての倫理観をもって行動できる 対象を全人的に捉え共感的態度をとることができる
あらゆる発達段階・健康段階・場において判断能力、問題解決能力、実践力の育成を図る内容を設置	統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 在宅援助論	在宅看護概論 在宅援助論
		看護の統合と実践	看護過程 看護過程演習 看護管理	看護過程 看護過程演習 看護管理
		臨地実習	在宅看護論演習 在宅看護論実習	在宅看護論演習 在宅看護論実習
			看護マネジメント演習 看護マネジメント実習	看護マネジメント演習 看護マネジメント実習
専門分野Ⅰを中核にし対象の発達段階・健康段階・場の特性に応じて深化させる内容として、概論・援助論・演習・実習と既習内容を効果的に積み上げていくように科目を配置 臨地実習では勤務経験により得られた看護体験を帰納的な思考プロセスをたどることで整理発展させることを目的根拠に基づいた看護実践力を養うためのものとして配置	専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論 成人援助論	成人看護学概論 成人援助論
		老年看護学	老年看護学概論 老年援助論	老年看護学概論 老年援助論
		小児看護学	小児看護学概論 小児援助論	小児看護学概論 小児援助論
		母性看護学	母性看護学概論 母性援助論	母性看護学概論 母性援助論
		精神看護学	精神看護学概論 精神援助論	精神看護学概論 精神援助論
		臨地実習	成人看護学演習 成人看護学実習	成人看護学演習 成人看護学実習
			老年看護学演習 老年看護学実習	老年看護学演習 老年看護学実習
			小児看護学演習 小児看護学実習	小児看護学演習 小児看護学実習
			母性看護学演習 母性看護学実習	母性看護学演習 母性看護学実習
			精神看護学演習 精神看護学実習	精神看護学演習 精神看護学実習
各看護学に共通の基礎的理論や基礎的技術を学ぶ科目を設置	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論／看護行為論 看護対人関係論 看護教育指導技術 看護と研究	看護学概論／看護行為論 看護対人関係論 看護教育指導技術 看護と研究
		臨地実習	基礎看護学演習 基礎看護学実習	基礎看護学演習 基礎看護学実習
看護学を専門分野として位置づけ、対象の生活過程を整える観点から、その専門領域を支える基礎となる科目を設置	専門基礎分野	人体の構造と機能		
		疾病の成り立ちと回復の促進		
人間を全人的にとらえ、かつ科学的な思考力を高め、共感的態度・倫理観・論理的思考を養うことを意図した科目を設置	基礎分野	科学的思考の基盤		
		人間と生活・社会の理解	生命と倫理／教育と人間 生涯発達論／家族と社会 生活と法／医学英語 カウンセリング論	生命と倫理／教育と人間 生涯発達論／家族と社会 生活と法／医学英語 カウンセリング論

3．人々の健康を自然、社会・文化的環境とのダイナミックな関係において理解する能力を養う。

4．個人・家族・地域社会の人々に対して科学的根拠に基づいた看護を実践するための基本的能力を養う。

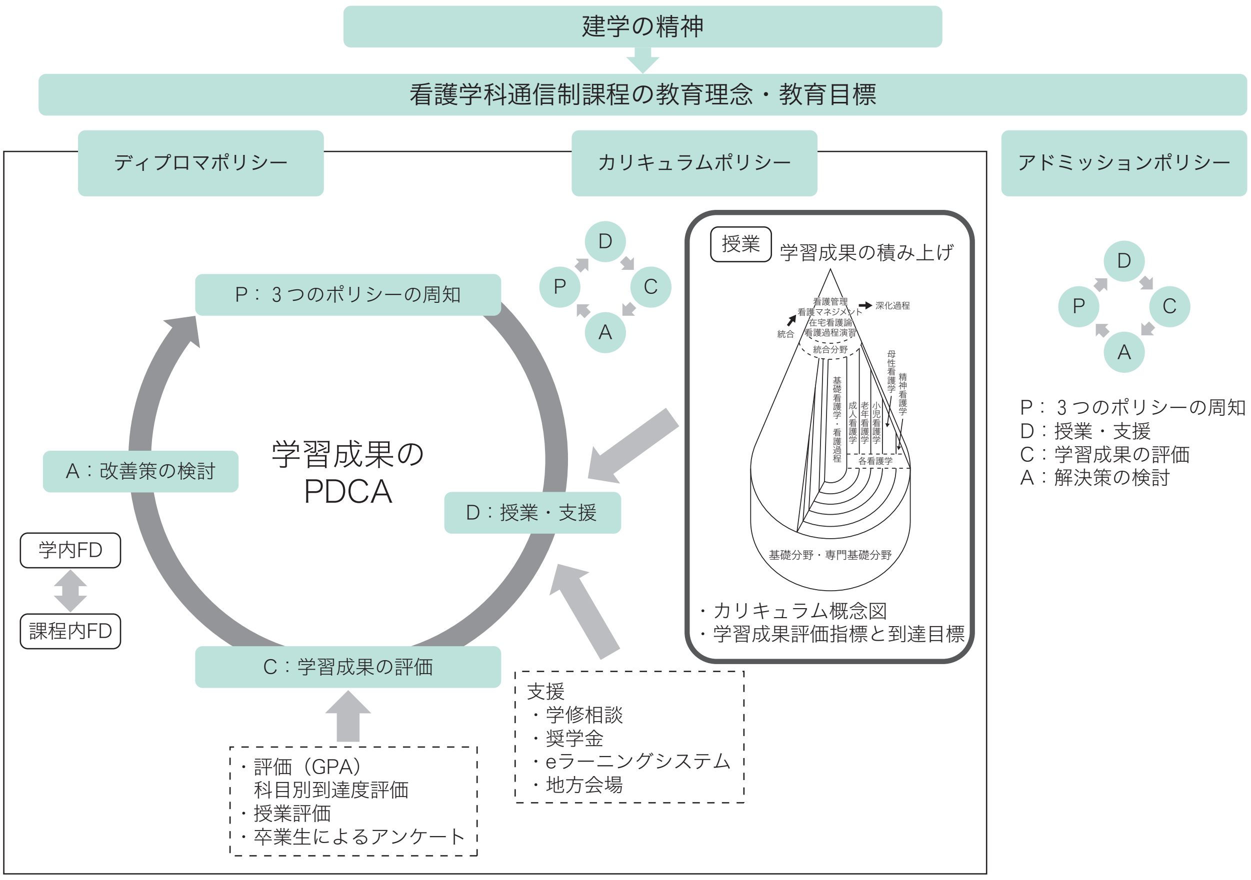
5．保健・医療・福祉チームの一員としての、看護職の機能と役割を自覚し、その責任を果たす基礎的能力を養う。

6．常に自己啓発するとともに自己の看護観を明確にし、追及することを通して看護を発展・展望する看護専門職業人としての態度を養う。

②科学的根拠に基づいて看護を実践し評価する力			③保健医療福祉チームの中で看護専門職の役割と機能を果たす力		④看護を探求し、科学的思考を基盤に発展させる力		
知識・理解	思考・判断・表現	技能	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	
専門分野に共通の基礎的理論や科学的根拠に基づいた基礎的技術が理解できる	科学的根拠に基づいた思考ができ看護実践に活かすことができる	看護実践を科学的思考に基づいて表現できる 実践した看護を評価できる	対象の発達段階・健康段階・場の特性に応じた判断や問題解決方法について理解できる	看護を専門分野として位置づけ対象の生活過程を整えることができる	帰納的な思考プロセスをたどり看護体験を整理し表現することができる	根拠に基づいた看護実践力を継続・発展させることができる	卒業要件
在宅看護概論 在宅援助論	在宅看護概論 在宅援助論		在宅看護概論 在宅援助論		在宅看護概論 在宅援助論	在宅看護概論 在宅援助論	必修11単位
看護過程 看護過程演習	看護過程 看護過程演習	看護過程演習	看護過程 看護過程演習 看護管理	看護過程演習	看護過程 看護過程演習 看護管理	看護過程 看護過程演習 看護管理	
在宅看護論演習 在宅看護論実習	在宅看護論演習 在宅看護論実習	在宅看護論実習	在宅看護論演習 在宅看護論実習	在宅看護論実習	在宅看護論演習 在宅看護論実習	在宅看護論演習 在宅看護論実習	
看護マネジメント演習 看護マネジメント実習	看護マネジメント演習 看護マネジメント実習	看護マネジメント実習	看護マネジメント演習 看護マネジメント実習	看護マネジメント実習	看護マネジメント演習 看護マネジメント実習	看護マネジメント演習 看護マネジメント実習	
成人援助論	成人援助論		成人看護学概論 成人援助論		成人看護学概論 成人援助論	成人看護学概論 成人援助論	必修25単位
老年援助論	老年援助論		老年看護学概論 老年援助論		老年看護学概論 老年援助論	老年看護学概論 老年援助論	
小児援助論	小児援助論		小児看護学概論 小児援助論		小児看護学概論 小児援助論	小児看護学概論 小児援助論	
母性援助論	母性援助論		母性看護学概論 母性援助論		母性看護学概論 母性援助論	母性看護学概論 母性援助論	
精神援助論	精神援助論		精神看護学概論 精神援助論		精神看護学概論 精神援助論	精神看護学概論 精神援助論	
成人看護学演習 成人看護学実習	成人看護学演習 成人看護学実習	成人看護学実習	成人看護学演習 成人看護学実習	成人看護学実習	成人看護学演習 成人看護学実習	成人看護学演習 成人看護学実習	
老年看護学演習 老年看護学実習	老年看護学演習 老年看護学実習	老年看護学実習	老年看護学演習 老年看護学実習	老年看護学実習	老年看護学演習 老年看護学実習	老年看護学演習 老年看護学実習	
小児看護学演習 小児看護学実習	小児看護学演習 小児看護学実習	小児看護学実習	小児看護学演習 小児看護学実習	小児看護学実習	小児看護学演習 小児看護学実習	小児看護学演習 小児看護学実習	
母性看護学演習 母性看護学実習	母性看護学演習 母性看護学実習	母性看護学実習	母性看護学演習 母性看護学実習	母性看護学実習	母性看護学演習 母性看護学実習	母性看護学演習 母性看護学実習	
精神看護学演習 精神看護学実習	精神看護学演習 精神看護学実習	精神看護学実習	精神看護学演習 精神看護学実習	精神看護学実習	精神看護学演習 精神看護学実習	精神看護学演習 精神看護学実習	
看護行為論 看護対人関係論 看護教育指導技術 看護と研究	看護行為論 看護対人関係論 看護教育指導技術 看護と研究		看護学概論		看護学概論／看護行為論 看護対人関係論 看護教育指導技術 看護と研究	看護学概論／看護行為論 看護対人関係論 看護教育指導技術 看護と研究	必修8単位
基礎看護学演習 基礎看護学実習	基礎看護学演習 基礎看護学実習	基礎看護学実習	基礎看護学演習 基礎看護学実習	基礎看護学実習	基礎看護学演習 基礎看護学実習	基礎看護学演習 基礎看護学実習	
看護解剖生理学 生化学	看護解剖生理学 生化学				看護解剖生理学 生化学		必修14単位
症候論／薬理学 病原微生物学・免疫学	症候論／薬理学 病原微生物学・免疫学		公衆衛生学／関係法規 保健医療福祉総論		症候論／薬理学 病原微生物学・免疫学		
物理学／化学／生物学 論理的思考演習	生物学	生物学					選択8単位以上

学習成果評価指標と到達目標

評価指標（大項目）	評価指標（小項目）	到達目標
対象を全人的に捉え、専門職業人としての倫理観をもって行動する力	思考・判断表現	人間を全人的に捉え思考することができる
	関心・意職態度	専門職業人としての倫理観をもって行動できる
		対象を全人的に捉え、共感的態度をとることができる
科学的根拠に基づいて看護を実践し評価する力	知識・理解	専門分野に共通の基礎的理論や、科学的根拠に基づいた基礎的技術が理解できる
	思考・判断表現	科学的根拠に基づいた思考ができ、看護実践に活かすことができる
	技能	看護実践を科学的思考に基づいて表現できる
		実践した看護を評価できる
保健医療福祉チームの中で看護専門職役割と機能を果たす力	知識・理解	対象の発達段階・健康段階・場の特性に応じた判断や問題解決方法について理解できる
	技能	看護を専門分野として位置づけ、対象の生活過程を整えることができる
看護を探求し科学的思考を基盤に発展させる力	思考・判断表現	帰納的な思考プロセスをたどり、看護体験を整理し表現することができる
	関心・意欲態度	根拠に基づいた看護実践力を継続・発展させることができる



「学習成果の概念図」

3 臨地実習施設について

施設名称	所在地	基礎看護学実習	看護マネジメント実習	成人看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護論実習
さいたま市立病院	埼玉県さいたま市	■	■	■		■	■		
独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院	埼玉県所沢市						■		
医療法人社団武蔵野会新座志木中央総合病院	埼玉県新座市	■	■	■	■				
独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター	千葉県千葉市							■	
医療法人社団淳英会おゆみの中央病院	千葉県千葉市	■	■	■	■				
おゆみの中央病院訪問看護ステーション	千葉県千葉市								■
医療法人社団翠明会山王病院	千葉県千葉市	■	■	■	■				
いちかわ訪問看護ステーション	千葉県市川市								■
医療法人徳洲会千葉徳洲会病院	千葉県船橋市	■	■	■	■				
船橋二和病院	千葉県船橋市					■	■		
医療法人徳洲会千葉西総合病院	千葉県松戸市	■		■	■	■	■		■
成田赤十字病院	千葉県成田市	■	■	■	■		■		
柏市立柏病院	千葉県柏市			■	■				
独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院	千葉県市原市	■	■	■	■	■	■		
さわやか訪問看護ステーション	千葉県八千代市								■
白十字訪問看護ステーション	東京都新宿区								■
八千代助産院	東京都文京区						■		
東京都立荏原病院	東京都大田区					■			
独立行政法人労働者健康安全機構東京労災病院	東京都大田区	■	■	■	■	■	■		
一般社団法人至誠会第二病院	東京都世田谷区	■	■	■	■				
代々木訪問看護ステーションサテライト経堂すずらん	東京都世田谷区								■
東京医療生活協同組合新渡戸記念中野総合病院	東京都中野区	■	■	■	■				
上高田訪問看護ステーション	東京都中野区								■
医療法人財団荻窪病院	東京都杉並区	■	■	■	■		■		
公益社団法人地域医療振興協会東京北医療センター	東京都北区	■	■	■	■	■			
公益社団法人地域医療振興協会練馬光が丘病院	東京都練馬区					■	■		
社会医療法人社団健生会立川相互病院	東京都立川市	■	■	■	■		■		
健生会にしき訪問看護ステーション	東京都立川市								■
立川相互病院付属子ども診療所	東京都立川市					■			
医療法人社団大日会太陽こども病院	東京都昭島市					■			
医療法人社団聖美会多摩中央病院	東京都多摩市							■	
医療法人社団時正会佐々総合病院	東京都西東京市	■	■				■		
医療法人社団武蔵野会牧野記念病院	神奈川県横浜市	■	■	■	■				
医療法人社団哺育会横浜相原病院	神奈川県横浜市							■	
川崎医療生活協同組合川崎協同病院	神奈川県川崎市	■	■	■	■	■	■		
おおしま訪問看護ステーション	神奈川県川崎市								■
大師公園前訪問看護ステーション	神奈川県川崎市								■
総合川崎臨港病院	神奈川県川崎市						■		
りんこう訪問看護ステーション	神奈川県川崎市								■
独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院	神奈川県川崎市	■	■	■	■	■	■		
医療法人社団三成会新百合ヶ丘総合病院	神奈川県川崎市	■	■						
大和市立病院	神奈川県大和市					■	■		
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院	神奈川県海老名市	■	■	■	■	■	■		
富山市立富山市民病院	富山県富山市	■	■	■	■	■	■	■	
訪問看護ステーションひよどり富山	富山県富山市								■
高岡市民病院	富山県高岡市	■	■	■	■	■	■	■	

施設名称	所在地	基礎看護学実習	看護マネジメント実習	成人看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護論実習
独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院	富山県魚津市	●	●	●	●				
訪問看護ステーションひよどり	富山県射水市								●
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院	石川県金沢市	●	●	●	●	●	●		●
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院	石川県金沢市	●	●	●	●		●		
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院	石川県金沢市							●	
JCHO金沢病院附属訪問看護ステーション	石川県金沢市								●
独立行政法人国立病院機構金沢医療センター	石川県金沢市					●			
独立行政法人国立病院機構医王病院	石川県金沢市					●			
医療法人社団浅ノ川心臓血管センター金沢循環器病院	石川県金沢市	●	●	●	●				
あさのがわ訪問リハビリ・訪問看護ステーション	石川県金沢市								●
国民健康保険小松市民病院	石川県小松市	●	●	●	●				
金沢医科大学病院	石川県河北郡内灘町						●		
社会福祉法人恩賜財団済生会福井県済生会病院	福井県福井市	●	●	●	●	●			
福井赤十字病院	福井県福井市	●	●	●	●	●	●		
医療法人福井愛育病院	福井県福井市					●	●		
公益財団法人松原病院	福井県福井市							●	
訪問看護ステーションふくい	福井県福井市								●
光陽訪問看護ステーション	福井県福井市								●
杉田玄白記念公立小浜病院	福井県小浜市							●	
静岡市立静岡病院	静岡県静岡市	●	●	●	●				
静岡県立こころの医療センター	静岡県静岡市							●	
静岡県立こども病院	静岡県静岡市					●			
静岡赤十字病院	静岡県静岡市						●		
訪問看護ステーションふれあい	静岡県静岡市								●
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院	静岡県浜松市					●			
浜松医療センター	静岡県浜松市						●		
訪問看護ステーションあすなろ	静岡県浜松市								●
独立行政法人労働者健康安全機構浜松労災病院	静岡県浜松市	●	●	●	●				
訪問看護ステーションほほえみ	静岡県三島市								●
訪問看護ステーションかんなみ	静岡県田方郡函南町								●
総合病院南生協病院	愛知県名古屋市			●		●	●		
藤田医科大学ばんたね病院	愛知県名古屋市	●	●	●	●	●	●		
訪問看護ステーション太陽・千種	愛知県名古屋市								●
独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター	愛知県名古屋市	●	●	●	●	●	●		
訪問看護ステーションさわらび	愛知県豊橋市								●
訪問看護ステーション太陽・一宮	愛知県一宮市								●
医療法人豊田会刈谷豊田総合病院	愛知県刈谷市	●	●	●	●	●	●		●
医療法人成精会刈谷病院	愛知県刈谷市							●	
刈谷訪問看護ステーション	愛知県刈谷市								●
訪問看護ステーション陽だまり	滋賀県大津市								●
医療法人恭昭会彦根中央病院	滋賀県彦根市	●	●	●	●				
市立長浜病院	滋賀県長浜市					●	●		
滋賀県立小児保健医療センター	滋賀県守山市					●			
公益財団法人豊郷病院	滋賀県犬上郡豊郷町			●	●				
訪問看護ステーションレインボウとよさと	滋賀県犬上郡豊郷町								●

施設名称	所在地	基礎看護学実習	看護マネジメント実習	成人看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護論実習
医療法人医仁会武田総合病院	京都府京都市	■		■	■	■	■		
医療法人社団恵心会京都武田病院	京都府京都市	■	■	■	■				■
公益社団法人京都保健会京都民医連中央病院	京都府京都市	■	■						
公益社団法人信和会京都民医連あすかい病院	京都府京都市			■	■				
おもいやり訪問看護ステーション	京都府京都市								■
独立行政法人地域医療機能推進機構京都鞍馬口医療センター	京都府京都市	■	■	■	■	■	■		
社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院	京都府京都市	■	■	■	■	■	■		
社会医療法人健康会京都南病院	京都府京都市	■	■	■	■				
京都第一赤十字病院	京都府京都市					■	■		
訪問看護ステーションみなみ	京都府京都市								■
社会福祉法人京都社会事業財団西陣病院	京都府京都市	■	■	■	■				
訪問看護ステーション西陣	京都府京都市								■
洛和会音羽病院	京都府京都市	■	■			■	■		
社会医療法人健康会新京都南病院	京都府京都市			■					
訪問看護ステーション碧い音	京都府京都市								■
社団法人信和会京都民医連第二中央病院	京都府京都市	■		■	■				
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター	京都府舞鶴市	■	■	■	■	■	■	■	
訪問看護ステーションはまなす	京都府舞鶴市								■
医療法人徳洲会宇治徳洲会病院	京都府宇治市	■		■	■	■	■		
京都府立洛南病院	京都府宇治市							■	
社会福祉法人あじろぎ会宇治病院	京都府宇治市	■		■	■	■	■		
社会福祉法人石井記念愛染園附属愛染橋病院	大阪府大阪市					■			
公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院	大阪府大阪市			■	■	■	■	■	
淀川キリスト教病院	大阪府大阪市					■			
医療法人警和会第二大阪警察病院	大阪府大阪市			■	■				
社会医療法人真美会大阪旭こども病院	大阪府大阪市					■			
公益財団法人淀川勤労者厚生協会附属西淀病院	大阪府大阪市	■	■	■	■				
社会医療法人同仁会耳原総合病院	大阪府堺市			■	■	■	■		
独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院	大阪府堺市	■	■	■	■	■	■		
医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院	大阪府岸和田市			■	■				
直原ウィメンズクリニック	大阪府豊中市						■		
医療法人協和会協和会病院	大阪府吹田市	■	■	■	■				
社会医療法人仙養会北摂総合病院	大阪府高槻市			■	■		■		
北摂総合病院訪問看護ステーション	大阪府高槻市								■
医療法人庸愛会富田町病院	大阪府高槻市				■	■			
とんだ訪問看護ステーション	大阪府高槻市								■
医療法人河﨑会水間病院	大阪府貝塚市							■	
大阪精神医療センター	大阪府枚方市							■	
医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院	大阪府八尾市	■	■	■	■				
社会医療法人医真会医真会八尾総合病院	大阪府八尾市	■	■	■	■	■			
ふれあい訪問看護ステーション	大阪府八尾市								■
医療法人一祐会藤本病院	大阪府寝屋川市						■		
医療法人徳洲会野崎徳洲会病院	大阪府大東市	■	■	■	■				
医療法人河内友紘会河内総合病院	大阪府東大阪市					■	■		
訪問看護ステーション翔	大阪府東大阪市								■

施設名称	所在地	基礎看護学実習	看護マネジメント実習	成人看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護論実習
公益財団法人甲南会六甲アイランド甲南病院	兵庫県神戸市	■	■	■	■	■	■		
公益財団法人甲南会甲南医療センター	兵庫県神戸市	■	■	■	■				
医療法人川崎病院	兵庫県神戸市	■	■	■	■				
訪問看護ステーションかもめ	兵庫県神戸市								■
訪問看護ステーションきずな	兵庫県神戸市								■
訪問看護・リハビリステーションわたぼうし	兵庫県神戸市								■
医療法人社団顕鐘会神戸百年記念病院	兵庫県神戸市	■	■	■					
独立行政法人地域医療機能推進機構神戸中央病院	兵庫県神戸市	■	■	■	■	■	■		
兵庫県立ひょうごこころの医療センター	兵庫県神戸市							■	
社会福祉法人恩賜財団済生会兵庫県病院	兵庫県神戸市					■	■		
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター	兵庫県神戸市					■	■		
神戸市立西神戸医療センター	兵庫県神戸市					■			
神戸市立医療センター西市民病院	兵庫県神戸市						■		
医療法人社団純心会パルモア病院	兵庫県神戸市					■	■		
ゆりかご訪問看護ステーション	兵庫県神戸市								■
神戸訪問看護ステーション	兵庫県神戸市								■
兵庫県済生会訪問看護ステーション	兵庫県神戸市								■
医療法人薫風会佐野病院	兵庫県神戸市						■		
神戸赤十字病院	兵庫県神戸市			■		■			
登村レディスクリニック	兵庫県神戸市						■		
兵庫県立こども病院	兵庫県神戸市					■			
なでしこレディースホスピタル	兵庫県神戸市						■		
訪問看護・リハビリステーションわたぼうしWEST	兵庫県神戸市								■
すまいる訪問看護ステーション	兵庫県神戸市								■
兵庫県立姫路循環器病センター	兵庫県姫路市	■	■	■	■				
社会医療法人製鉄記念広畑病院	兵庫県姫路市	■	■	■	■	■	■		
独立行政法人国立病院機構姫路医療センター	兵庫県姫路市						■		
社会医療法人財団聖フランシスコ会姫路聖マリア病院	兵庫県姫路市					■	■		
訪問看護ステーションまんぼう	兵庫県姫路市								■
医療法人全人会仁恵病院	兵庫県姫路市							■	
マリア訪問看護ステーション	兵庫県姫路市								■
姫路赤十字病院	兵庫県姫路市					■	■		
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	兵庫県姫路市	■	■	■	■		■		
兵庫県立尼崎総合医療センター	兵庫県尼崎市	■	■	■	■	■	■		
尼崎訪問看護ステーション	兵庫県尼崎市								■
尼崎第二訪問看護ステーション	兵庫県尼崎市								■
おおくま訪問看護ステーション	兵庫県尼崎市								■
尼崎医療生協病院	兵庫県尼崎市					■	■		
訪問看護ステーションくいせ	兵庫県尼崎市								■
訪問看護ステーションすずらん	兵庫県尼崎市								■
訪問看護ステーションはるかぜ	兵庫県尼崎市								■
訪問看護ステーション菜の花	兵庫県尼崎市								■
兵庫県立塚口病院	兵庫県尼崎市			■	■	■			
訪問看護ステーションかけはし	兵庫県明石市								■
特定医療法人誠仁会大久保病院	兵庫県明石市						■		

施設名称	所在地	基礎看護学実習	看護マネジメント実習	成人看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護論実習
社会医療法人愛仁会明石医療センター	兵庫県明石市						■		
医療法人財団光明会明石こころのホスピタル	兵庫県明石市							■	
兵庫県立西宮病院	兵庫県西宮市	■	■	■	■	■			
医療法人内海慈仁会有馬病院	兵庫県西宮市							■	
医療法人信和会明和病院	兵庫県西宮市						■		
協立訪問看護ステーション（サテライトマリナセンター）	兵庫県西宮市								■
西宮市立中央病院	兵庫県西宮市	■	■	■	■	■			
一般財団法人仁明会仁明会病院	兵庫県西宮市							■	
医療法人ＩＨＩ播磨病院	兵庫県相生市	■	■	■	■				
公立豊岡病院組合立豊岡病院	兵庫県豊岡市	■	■	■	■	■	■	■	
兵庫県立加古川医療センター	兵庫県加古川市	■	■	■	■				
加古川中央市民病院	兵庫県加古川市	■	■			■	■		
公益財団法人甲南会甲南加古川病院	兵庫県加古川市	■	■	■	■				
医療法人達磨会東加古川病院	兵庫県加古川市							■	
まごころケア研究センター	兵庫県加古川市								■
訪問看護ステーションマザー	兵庫県加古川市								■
ことぶき訪問看護ステーション	兵庫県加古川市								■
西脇市立西脇病院	兵庫県西脇市					■	■		
医療法人尚和会宝塚第一病院	兵庫県宝塚市					■			
医療法人社団関田会ときわ病院	兵庫県三木市	■	■		■				
三木市立三木市民病院	兵庫県三木市	■	■	■					
高砂市民病院	兵庫県高砂市	■							
まごころケア研究センター高砂訪問看護ステーション	兵庫県高砂市								■
協立訪問看護ステーション	兵庫県川西市								■
協立訪問看護ステーション（サテライトスミスセンター）	兵庫県川西市								■
医療法人協和会協立病院	兵庫県川西市	■	■	■	■				
市立小野市民病院	兵庫県小野市					■			
三田市民病院	兵庫県三田市						■		
市立加西病院	兵庫県加西市						■		
訪問看護ステーションのどか	兵庫県丹波篠山市								■
兵庫県立柏原病院	兵庫県丹波市	■	■	■	■	■	■		
柏原赤十字訪問看護ステーション	兵庫県丹波市								■
兵庫県立丹波医療センター	兵庫県丹波市	■	■	■	■	■	■		
大地訪問看護ステーション	兵庫県加古郡播磨町								■
奈良県総合医療センター	奈良県奈良市	■		■	■	■	■		
社会医療法人平和会吉田病院	奈良県奈良市							■	
医療法人財団北林厚生会五条山病院	奈良県奈良市							■	
西の京訪問看護ステーションかがやき	奈良県奈良市								■
社会医療法人健生会土庫病院	奈良県大和高田市					■			
社会医療法人健生会土庫こども診療所	奈良県大和高田市					■			
独立行政法人地域医療機能推進機構大和郡山病院	奈良県大和郡山市	■	■	■	■	■	■		
社会福祉法人恩賜財団済生会中和病院	奈良県桜井市	■		■	■				
社会保険紀南病院	和歌山県田辺市	■		■	■	■	■	■	
鳥取県看護協会訪問看護ステーション	鳥取県鳥取市								■
鳥取大学医学部附属病院	鳥取県米子市			■	■	■	■		

施設名称	所在地	基礎看護学実習	看護マネジメント実習	成人看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護論実習
訪問看護ステーションネットケア	鳥取県米子市								●
訪問看護ステーションなんぶ幸朋苑	鳥取県米子市								●
訪問看護ステーションせいわ	鳥取県倉吉市								●
社団法人鳥取県中部医師会立三朝温泉病院	鳥取県東伯郡三朝町	●	●						
島根大学医学部附属病院	島根県出雲市	●	●	●	●	●	●	●	
訪問看護ステーションいずも	島根県出雲市								●
岡山市立市民病院	岡山県岡山市	●		●	●	●	●		
社会福祉法人恩賜財団済生会岡山済生会総合病院	岡山県岡山市	●		●	●	●	●		
一般財団法人河田病院	岡山県岡山市							●	
岡山県精神科医療センター	岡山県岡山市							●	
さいわい訪問看護ステーション	岡山県岡山市								●
岡山訪問看護ステーション看護協会	岡山県岡山市								●
みつ訪問看護ステーション看護協会	岡山県岡山市								●
独立行政法人労働者健康安全機構岡山労災病院	岡山県岡山市	●	●	●	●				
総合病院岡山協立病院	岡山県岡山市	●	●	●	●				
岡山赤十字病院	岡山県岡山市					●			
さわだレディスクリニック	岡山県岡山市						●		
訪問看護ステーションさくらんぼ	岡山県岡山市								●
さくら苑訪問看護ステーション	岡山県岡山市								●
岡山医療生活協同組合せいきょう駅元診療所	岡山県岡山市								●
岡山医療生活協同組合コープみんなの診療所	岡山県岡山市								●
医療法人天和会松田病院	岡山県倉敷市	●	●	●	●				
一般財団法人倉敷成人病センター	岡山県倉敷市					●	●		
かねこ助産院	岡山県倉敷市						●		
一般財団法人津山慈風会津山中央病院	岡山県津山市	●	●	●	●	●	●		
一般財団法人江原積善会積善病院	岡山県津山市							●	
津山中央訪問看護ステーション	岡山県津山市								●
医療法人社団井口会総合病院落合病院	岡山県真庭市						●		
公立学校共済組合中国中央病院	広島県福山市					●	●		
福山市民病院	広島県福山市					●	●		
社会医療法人へいあん平安病院	沖縄県浦添市			●	●	●	●		●
医療法人徳洲会南部徳洲会病院	沖縄県島尻郡八重瀬町							●	

※法人名称、施設名称、所在地は、当時のものも含まれています。

実習施設数

都道府県	基礎看護学実習	看護マネジメント実習	成人看護学実習	老年看護学実習	小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	在宅看護論実習
埼玉県	2	2	2	1	1	2	0	0
千葉県	6	5	7	7	3	4	1	4
東京都	7	7	6	6	6	6	1	4
神奈川県	5	5	4	4	4	5	1	3
富山県	3	3	3	3	2	2	2	2
石川県	4	4	4	4	3	3	1	3
福井県	2	2	2	2	3	2	2	2
静岡県	2	2	2	2	2	2	1	4
愛知県	3	3	4	3	4	4	1	5
滋賀県	1	1	2	2	2	1	0	2
京都府	12	8	11	10	8	8	2	6
大阪府	6	6	11	12	9	7	3	4
兵庫県	22	21	20	18	22	26	7	28
奈良県	3	1	3	3	4	2	2	1
和歌山県	1	0	1	1	1	1	1	0
鳥取県	1	1	1	1	1	1	0	4
島根県	1	1	1	1	1	1	1	1
岡山県	6	4	6	6	5	7	3	8
広島県	0	0	0	0	2	2	0	0
沖縄県	0	0	1	1	1	1	1	1
合計	87	76	91	87	84	87	30	82

4 統計

入学生数／都道府県

都道府県	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
北海道	0	0	0	1	1	0	1	0	2
青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城県	1	1	0	0	0	0	0	0	0
秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島県	0	1	0	0	1	0	0	0	1
茨城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木県	0	0	0	0	1	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0	0	1	0
埼玉県	1	0	1	0	0	1	1	0	1
千葉県	0	2	2	0	1	0	1	1	0
東京都	2	2	5	2	1	1	3	2	1
神奈川県	1	2	2	2	2	2	1	1	2
新潟県	0	1	0	1	0	0	0	1	0
富山県	8	1	0	0	0	0	0	0	0
石川県	3	3	1	0	2	0	1	0	0
福井県	3	3	6	1	1	0	1	0	1
山梨県	0	0	1	0	1	0	0	1	0
長野県	4	1	2	2	0	0	0	0	1
岐阜県	2	0	0	3	0	0	2	1	1
静岡県	4	4	5	3	1	2	1	0	1
愛知県	18	9	12	13	2	5	5	8	4
三重県	11	8	5	3	5	4	2	0	3
滋賀県	9	7	9	1	5	15	5	6	11
京都府	20	37	29	26	47	34	29	29	21
大阪府	97	125	116	73	76	83	80	43	38
兵庫県	166	117	100	90	112	115	108	79	90
奈良県	10	19	13	8	10	9	13	7	8
和歌山県	3	2	0	0	1	2	1	1	3
鳥取県	7	4	1	2	2	11	9	3	3
島根県	3	3	2	1	5	2	3	0	2
岡山県	30	28	22	20	22	30	11	7	14
広島県	11	11	14	4	7	7	5	5	7
山口県	1	0	1	0	0	1	1	1	0
徳島県	0	2	0	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	1	0	2	0	1
愛媛県	0	1	0	1	0	0	1	0	0
高知県	1	1	0	3	0	0	0	0	0
福岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
佐賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本県	0	0	0	0	1	0	0	0	0
大分県	0	1	0	1	0	1	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0	1	0	0	0
鹿児島県	0	0	0	0	1	0	0	0	1
沖縄県	0	0	0	0	0	1	1	0	1
合計	416	396	349	261	309	327	288	197	218

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合 計
0	1	0	0	0	0	1	1	0	8
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	1	0	0	0	1	4
1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
2	1	0	0	2	1	0	0	0	6
1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
0	0	0	0	1	0	1	0	1	4
1	3	2	1	5	3	0	2	1	23
3	3	13	4	6	2	6	2	8	54
7	10	10	12	16	9	8	13	12	116
9	9	14	5	12	13	7	4	7	95
0	1	0	0	1	0	0	0	2	7
0	0	1	0	10	5	6	6	6	43
1	0	1	1	7	2	5	18	15	60
0	0	0	0	13	8	5	8	3	53
0	1	1	1	1	0	0	0	0	7
0	1	1	0	2	2	1	0	0	17
1	0	0	1	0	0	1	0	1	13
7	6	6	1	3	4	2	2	2	54
3	1	1	0	2	4	0	2	2	91
1	0	0	1	0	0	1	2	0	46
6	4	4	2	3	1	1	4	3	96
17	14	14	5	4	5	4	2	6	343
31	23	19	12	8	13	6	6	8	857
59	50	58	45	61	44	48	31	60	1,433
9	6	2	6	2	2	2	1	0	127
2	1	0	1	0	0	0	0	0	17
4	2	2	1	1	4	1	2	2	61
3	0	2	1	1	0	1	1	1	31
8	3	4	5	3	1	0	2	2	212
3	2	4	0	2	0	0	3	3	88
0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
0	1	1	1	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	1	0	0	1	0	6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	1	1	0	2	0	1	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
1	0	0	0	1	1	0	0	0	6
182	145	161	107	172	125	109	114	148	4,024

卒業生数／都道府県

都道府県	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
北海道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城県	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
栃木県	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
群馬県	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
埼玉県	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
千葉県	0	0	3	1	1	0	0	0	1	0
東京都	2	1	1	0	0	0	2	2	0	1
神奈川県	1	1	0	1	0	2	1	0	1	5
新潟県	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0
富山県	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0
石川県	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0
福井県	1	0	4	3	1	1	0	0	0	0
山梨県	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
長野県	0	4	0	1	2	0	0	0	0	0
岐阜県	2	0	0	2	0	0	1	1	1	1
静岡県	3	2	3	2	2	3	0	0	0	4
愛知県	8	7	6	10	3	5	5	4	4	1
三重県	3	6	2	4	5	2	3	0	0	2
滋賀県	3	3	8	4	5	9	3	5	3	7
京都府	9	17	24	20	28	23	17	22	13	18
大阪府	41	55	76	85	61	51	47	44	36	26
兵庫県	70	69	101	73	63	82	62	77	55	51
奈良県	5	8	9	9	8	6	5	9	8	4
和歌山県	2	0	2	1	0	0	2	2	1	2
鳥取県	4	2	2	0	0	6	4	6	3	2
島根県	0	0	4	1	2	2	0	1	2	2
岡山県	11	19	15	17	20	18	8	12	11	10
広島県	3	5	6	5	4	5	1	7	4	2
山口県	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
徳島県	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
香川県	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
愛媛県	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0
高知県	0	1	0	2	2	0	0	0	0	0
福岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
佐賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本県	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
大分県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮崎県	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
鹿児島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
沖縄県	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
合　計	174	207	269	245	212	215	167	195	148	142

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合 計
0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1	0	0	2	1	0	0	0	0	5
1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1	0	2	4	2	0	1	1	0	15
3	7	2	7	3	4	4	3	5	44
3	10	4	9	14	6	3	12	10	80
7	10	6	12	11	3	4	5	3	73
0	1	0	0	0	0	0	0	2	6
0	0	0	6	5	7	4	6	0	36
1	0	1	8	2	4	15	14	4	54
0	0	0	8	9	3	8	5	0	43
1	1	0	0	0	0	1	0	0	6
0	1	1	1	2	1	0	0	0	13
0	1	1	0	0	1	0	1	0	12
2	2	1	5	3	1	2	1	1	37
2	0	0	2	4	0	1	1	1	64
1	0	1	0	0	0	1	0	0	30
7	1	3	2	0	2	3	3	1	72
11	15	6	3	4	3	3	3	2	241
14	18	11	10	7	5	7	8	2	604
53	31	45	39	46	49	22	48	17	1,053
5	3	6	0	3	2	0	0	1	91
0	0	1	0	0	0	0	0	0	13
3	1	2	1	4	1	2	1	1	45
0	2	0	0	0	1	0	1	0	18
4	2	1	4	2	0	2	0	2	158
3	3	0	2	0	0	3	2	1	56
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
1	1	1	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	1	1	0	0	0	5
127	111	96	128	124	94	90	116	53	2,913

年齢分布

入学年度	30歳未満	30〜39歳	40〜49歳	50〜59歳	60歳以上	平均年齢
2005	1	230	140	44	1	39.9
2006	3	197	159	35	2	40.3
2007	7	166	137	36	3	40.8
2008	5	122	103	28	3	40.7
2009	1	121	148	33	6	41.8
2010	4	131	147	44	1	41.3
2011	3	121	126	37	1	41.5
2012	1	70	94	31	1	42.3
2013	2	88	103	24	1	41.4
2014	2	70	87	21	2	42.0
2015	3	49	68	22	3	42.5
2016	0	59	78	22	2	42.3
2017	1	32	54	18	2	43.3
2018	4	62	76	28	2	42.1
2019	1	36	61	26	1	43.9
2020	1	19	63	22	4	45.3
2021	5	35	52	21	1	42.7
2022	2	31	84	28	3	44.7

※年齢は入学時のもの

看護師国家試験結果

実施年度	実施回	新卒			既卒			合計		
		受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
2006	96	173	161	93.1%	0	0	0.0%	173	161	93.1%
2007	97	207	201	97.1%	13	10	76.9%	220	211	95.9%
2008	98	269	245	91.1%	9	6	66.7%	278	251	90.3%
2009	99	244	204	83.6%	26	21	80.8%	270	225	83.3%
2010	100	211	177	83.9%	44	26	59.1%	255	203	79.6%
2011	101	214	184	86.0%	53	28	52.8%	267	212	79.4%
2012	102	167	125	74.9%	57	19	33.3%	224	144	64.3%
2013	103	194	139	71.6%	76	26	34.2%	270	165	61.1%
2014	104	147	111	75.5%	102	45	44.1%	249	156	62.7%
2015	105	140	111	79.3%	94	25	26.6%	234	136	58.1%
2016	106	127	83	65.4%	90	32	35.6%	217	115	53.0%
2017	107	111	80	72.1%	95	33	34.7%	206	113	54.9%
2018	108	95	75	78.9%	81	22	27.2%	176	97	55.1%
2019	109	126	94	74.6%	75	17	22.7%	201	111	55.2%
2020	110	124	96	77.4%	84	30	35.7%	208	126	60.6%
2021	111	93	70	75.3%	78	20	25.6%	171	90	52.6%
2022	112	87	69	79.3%	75	30	40.0%	162	99	61.1%
2023	113	115	92	80.0%	62	11	17.7%	177	103	58.2%
2024	114	51	29	56.9%	68	20	29.4%	119	49	41.2%
合計		2,895	2,346	81.0%	1,182	421	35.6%	4,077	2,767	67.9%

神戸常盤大学短期大学部
看護学科通信制課程　記念誌

発行日　2025年9月10日

発行者　学校法人玉田学園　理事長　中村　忠司
〒653-0838　兵庫県神戸市長田区大谷町2-6-2
TEL 078-611-1821　FAX 078-643-4361

印　刷　大和出版印刷株式会社

神戸常盤大学短期大学部　看護学科通信制課程